

第 57 回滋賀県立美術館協議会 会議次第

日時：令和 8 年 3 月 9 日(月)14:00～

場所：滋賀県立美術館ワークショップルーム

1 あいさつ

2 議題

(1) 報告事項

①令和 7 年度の事業実施状況について

②滋賀県立美術館整備基本計画検討状況について

(2) 協議事項

①令和 8 年度の主な事業予定について

【配布資料一覧】

滋賀県立美術館協議会委員名簿および配席図

資料 1 「令和 7 年度の事業実施状況について」

資料 2 「令和 7 年度 購入、寄贈、寄託作品リスト」

資料 3 「滋賀県立美術館整備基本計画検討状況」

資料 4 「令和 8 年度の主な事業予定について」

添付資料 「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」チラシ 開催中

「ASK01 湖北における現代美術展 キュンチョメ 100 万年の子守唄」

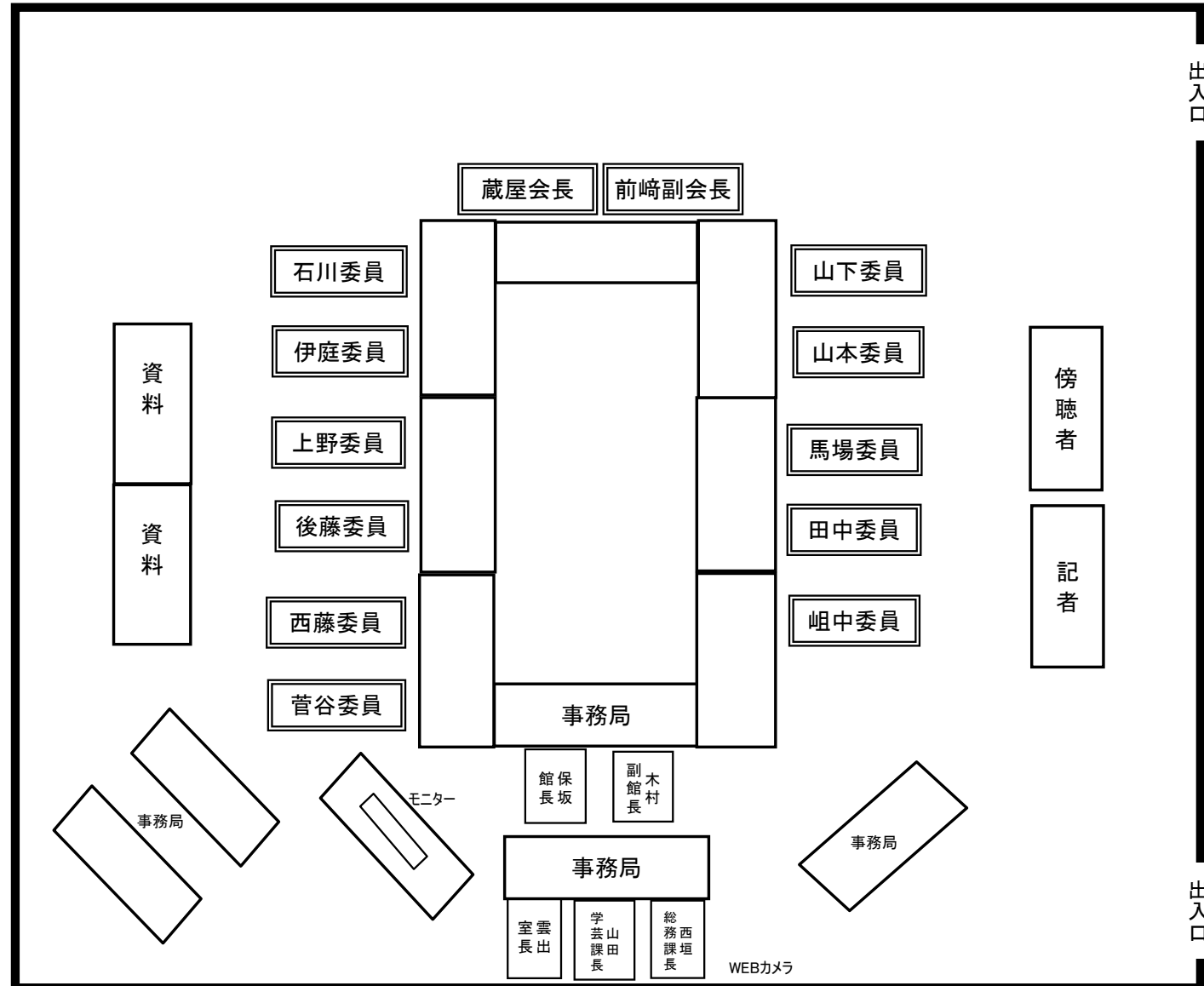
チラシ 高島市大溝地域にて開催中

「ためして、みる展 さわって 照らして ねそべって!?アートを楽しむ

10 のトライ」チラシ R8.4.17 開幕

第57回滋賀県立美術館協議会 配席図

令和8年3月9日（月）14:00～
滋賀県立美術館ワークショップルーム



滋賀県立美術館協議会委員

(敬称略・五十音順)

委 員 氏 名	現 職	備 考
いしかわ いちろう 石川 一郎	株式会社京都新聞滋賀本社代表	出席
いば やすじ 伊庭 靖二	滋賀県美術協会	出席
うえの ななえ 上野 奈々恵	滋賀県美術教育研究会 (甲賀市立甲南第一小学校教諭)	出席
くらや みか 蔵屋 美香	横浜美術館館長	出席
ごとう ゆみこ 後藤 結美子	京都市美術館学芸係長	出席
さいとう たかひろ 西藤 崇浩	経済同友会特別幹事	出席
すがや とみお 菅谷 富夫	大阪中之島美術館館長	出席
そわなか ようこ 岨中 庸子	滋賀県社会教育委員（家庭教育）	出席
たなか あおい 田中 碧	公募委員 (滋賀県立大学生)	出席
ば ば しんさく 馬場 晋作	成安造形大学教授	出席
まえざき しんや 前崎 信也	京都女子大学教授	出席
みつしま たかゆき 光島 貴之	アトリエみつしま代表	欠席
やました りか 山下 里加	学校法人瓜生山学園 京都芸術大学教授	出席
やまもと まさひろ 山本 昌弘	滋賀県造形集団	出席

令和 7 (2025)年度の 事業実施状況について

滋賀県立美術館協議会
令和 8 (2026)年 3 月 9 日

1 運営状況

1-1 利用者数

□ 展覧会観覧者数 令和7(2025)年度 延べ59,426人 (令和8(2026)年1月末時点)

□ 観覧者のうち中学生以下の割合は休館前より大きく増加 (3.8%→19.7%)

展覧会観覧者数							教育・交流事業		利用者数計 (a)+(b)+(c) (※1)	来館者数 (※1)	県美メンバーズ 会員数 (※2)
年度	常設展 (a)	企画展 (b)	計 (a)+(b)	開催日数	1日平均	うち中学生 以下	計 (c)	うちギャラリー入 場者数			
H28(2016)年度	24,061	36,821	60,882	273	223	3.8%	49,328	34,884	110,210	-	310
R3(2021)年度 (R3.6.27～R4.3.31)	22,475	29,605	52,080	183	285	9.7%	4,109	268	56,189	58,776	1,144
R4(2022)年度 (R4.4.1～R5.3.31)	36,404	34,119	70,523	296	238	9.4%	16,343	10,632	86,866	62,049	1,044
R5(2023)年度(※3) (R5.4.1～R6.3.31)	26,908	23,294	50,202	213	236	12.2%	21,066	14,509	71,268	47,569	1,011
R6(2024)年度(※3) (R6.4.1～R7.3.31)	34,801	31,950	66,751	265	252	11.1%	42,563	19,596	109,314	63,575	664
R7(2025)年度 (R7.4.1～R8.1.31)	28,443	30,983	59,426	250	238	19.7%	34,894	13,269	94,320	59,256	809
R7(2025)年度目標	40,000	60,000	100,000	300	-	-	60,000	-	160,000	-	-

※1 利用者数：展覧会観覧者数と教育・交流事業の参加者数の合計／来館者数：入口でスタッフがカウントした入場者数

※2 平成28年度は旧近代美術館友の会員数

※3 令和5年12月21日～令和6年4月19日 施設改修工事（長寿命化工事）のため休館

トピックス1： 託児事業の試行

小さなお子様がおられる方にも美術館を楽しんでいたできるように、令和5(2023)年度から託児の試行を行っている。

令和7(2025)年度は企画展開催中の第1、第3日曜(10:30～13:00)を中心に、1月末現在12回実施し、25名のお子様のご利用があった。

ゆっくりと展覧会を観ることができたというお声をいただいている。

1-2 アンケート結果 ※平成28年度は「つながる美・引き継ぐ心」展の際のアンケート結果

□ 来館満足度が向上 (大変良かった・良かった 77.9%→92.4%)

令和7(2025)年度目標 90%以上

美術館の印象

	大変良かった	良かった	普通	あまり良くない	良くない・その他	見ていない
H28	33.8%	44.1%	10.3%	0.0%	11.7%	-
R4	43.9%	45.9%	6.4%	2.5%	1.2%	-
R5	52.2%	39.1%	7.3%	0.8%	0.7%	-
R6	62.8%	30.0%	4.4%	0.4%	0.3%	2.1%
R7	63.2%	29.2%	4.4%	0.5%	0.5%	2.2%

居住地

	県内	県外
H28	57.2%	42.6%
R4	46.9%	53.1%
R5	55.4%	44.6%
R6	62.8%	30.0%
R7	56.0%	43.7%

1-3 ギャラリー・ポップアップギャラリー利用

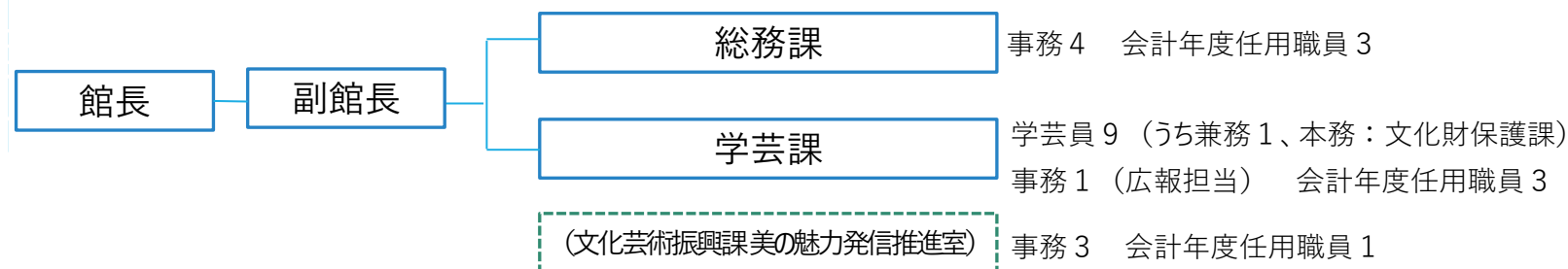
ギャラリー・PUG利用率

(R6.4.23～R7.3.30/R7.4.1～R8.3.29)

	ギャラリー		ポップアップギャラリー	
	R6	R7	R6	R7
使用可能週数	43	51	43	51
利用週数	33	22	22	27
稼働率	76.7%	43.1%	51.2%	52.9%

2 運 営

2-1 組織体制 (令和8(2026)年1月1日現在)



2-2 施設管理

長期休館中の令和2(2020)~3(2021)年度にかけて、老朽化対策を中心とした改修工事を行うとともに、ロビー周辺をウェルカムゾーンとして整備した。令和4(2022)~5(2023)年度にかけては、外壁や設備関係の長寿命化工事を行った。昭和59(1984)年の開館から40年以上が経過しており、良好な展示保存環境の維持や安全性の確保のため、今後も継続的な施設・設備の改修を行う必要があり、令和7(2025)年度中に策定する整備基本計画において対応を明記していく予定である。

□令和4(2022)年~5(2023)年度に実施した主な長寿命化対策工事

エレベーター改修工事（既存不適格となっていた作品輸送用大型エレベーターの更新）

空調改修工事（空調冷却水ポンプや配管の更新）

屋根・外壁工事（老朽化が進行している屋根や外壁の防水等対策工事）

文化庁 公開承認施設の更新

文化庁が国宝・重要文化財の展示公開に適していると認定した施設である「公開承認施設」については、5年に1度更新が必要である。当館は、重要文化財の展示や、施設改修・維持管理等の実績が認められ、令和3年12月に更新の認定を受けた。今後も滋賀県をはじめとする歴史文化遺産について積極的に展示していく予定である。

2-3 当初予算額（単位：千円）

	平成28(2016)年度 (休館前最終年度)	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	主な内訳
管理運営費	103,308	159,483	158,247	施設管理、空調費、修繕費ほか
美術品収集事業費	12,915	18,000	12,000	作品購入（3,800）、作品修復（3,000） ほか
展覧会開催事業費	62,277	103,908	117,395	常設展、企画展、次年度準備、展示監視 ほか
情報普及事業費	14,830	13,319	11,120	広報、美術教育、講座・ワークショップ開催 ほか
魅力向上事業費	-	17,450	38,641	整備計画策定の大学共同研究、植栽改良 ほか
美術館整備費	-	-	10,900	冷温水発生機修繕
合 計	193,330	312,160	348,303	
(うち特定財源)	40,942	60,643	106,538	観覧料収入、補助金・助成金、寄附金、繰入金ほか ※ 1 ※ 2 ※ 3
(うち一般財源)	152,388	251,517	241,765	県費負担

※ 1 観覧料収入 令和6年度実績 21,553千円 令和 7 年度予算額 32,129千円（県美メンバーズ収入も含む）

※ 2 主な補助金・助成金

令和6年度実績 文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（2,038千円）、
（公財）朝日新聞文化財団助成金（300千円）、美術館・博物館の夜間活用による新たな価値創出事業（1,642千円）
令和7年度 文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（1,800千円）、
文化芸術振興補助金（2,760千円）、新しい地方経済・生活環境創生交付金（2,630千円）

※ 3 寄附金 令和6年度実績 2,170千円 令和 7 年度予算額 21,000千円

2-4 収入（単位：千円）（令和8(2026)年1月末現在）

	予算額	収入額	主な内訳
常設展観覧料	2,964	678	一般 570円/人(団体460円/人) 964人 大学生 340円/人(団体280円/人) 81人
企画展観覧料	25,133	14,561	一般 950円～1,300円/人(団体800円～1,100円/人) 13,352人 高・大 600円～900円/人 (団体500円～700円/人) 767人 小・中 400円～700円/人 (団体300円～500円/人) 2,212人
県美メンバーズ	3,895	1,664	一般 2,500円/人 610人 高校・大学生 1,650円/人 31人 小・中学生 1,250円/人 71人
美術館サポーター	5,300	3,360	個人サポーター 10件 計 160,000円 法人サポーター 9件 計3,200,000円
図録等販売収入	3,600	2,424	ザ・キャビンカンパニー展 3,200円 783冊 お、さんぽ展 2,002円 202冊 笹岡由梨子展 4,180円 81冊 ほか
ギャラリー使用料	3,361	1,154	ギャラリーおよびポップアップギャラリー使用料
助成金・国庫ほか	61,748	15,000	企業寄附（サポーター以外）15,000,000円 助成金(2,000千円)採択なし、補助金(7,190千円)未収、企業寄附(700千円)なし、 脱炭素化推進事業債(5,800千円)執行なし、CO2ネットゼロ基金繰入金(658千円)執行なし、 文化振興基金繰入金(19,500千円)、公共施設適正管理推進事業債(10,900千円)
その他	537	565	ショップ使用料・共益費等 407,092円 特別観覧料 144,875円 ワークショップ材料費 12,700円 預金利息 703円
合 計	106,538	39,409	

3 コレクションと作品収集

当館の収集方針に基づき、継続的に作品収集を行っている。

3-1 作品収集方針

- ①日本美術院を中心とした近代日本画
- ②滋賀県ゆかりの美術・工芸等
- ③戦後アメリカと日本の現代美術
- ④アール・ブリュット
- ⑤芸術分野の多様性を確認できるような作品

昭和59(1984)年の開館以来、①から③の3本の収集方針を軸に作品を収集。平成28(2016)年からは④、さらに、令和3(2021)年のリニューアルに際し⑤を加え、より幅広い芸術分野の発信と継承に努めている。

中でも、重要文化財《近江名所図》のほか、滋賀県出身で日本画家の小倉遊亀（58件）、染織家の志村ふくみ（181件）、マーク・ロスコをはじめとしたアメリカ美術、澤田真一をはじめとしたアール・ブリュットのコレクションで知られている。

3-2 作品収集状況（令和8(2026)年2月現在）

部 門	作品件数 (2月1日時点)	作品件数 (3月末見込)
日本画・郷土芸術	1,303	1,323
現代美術	636	645
アール・ブリュット関連	790	808
合 計	2,729	2,776

令和8(2026)年2月9日(月)収集審査部会開催

< 参考 > 当館収蔵の女性作家の数

令和7(2025)年3月現在 78名（全収蔵作家525名のうち約14.9%）

令和8(2026)年2月現在 84名（全収蔵作家538名のうち約15.6%）

3-3 令和7(2025)年度の収集状況

購入	1件	1,760千円
寄贈	46件	54,919千円（評価額）
寄託	0件	—

3-4 令和7(2025)年度収集作品 購入 現代美術

計 1 件 1 点 1,760,000円

ローレンス・ウィナー 1件1点



ローレンス・ウィナー《HERE & NOW NOW & THEN》

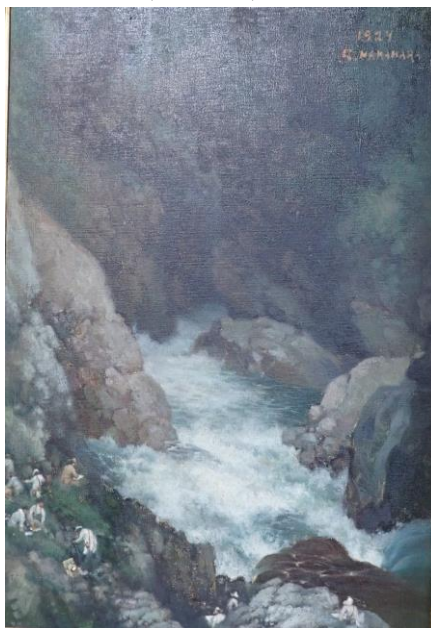
平成8(1996)/令和6(2024)年 言語と参照されている素材(Language + the materials referred to) サイズ可変

3-5 令和7(2025)年度収集作品 寄贈 日本画・郷土美術 計 20件26点 評価額 8,119,000円

- ・大田左卿《陶然自楽》《無念無想》《ふるさと》 計3件3点 寄贈者：大田京子（滋賀県）
- ・岸竹堂《農夫繫牛図》 計1件1点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・内藤和子《花》 計1件1点 寄贈者：本田路晴（東京都）
- ・中原甕塘《溪流図》《山岳図》 計2件2点 寄贈者：山元寛昭（滋賀県）
- ・野口謙蔵《野鳥図》 計1件1点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・野口謙蔵・米田雄郎《蓮図》 計1件1点 中神源一（滋賀県）
- ・野口謙蔵・前田夕暮・米田雄郎ほか《歌帖「あをくさ」》 計1件1点 寄贈者：星野桂三（京都府）
- ・長谷川玉純《牛羊図》 計1件1点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・長谷川玉峰《蓬萊山図》 計1件1点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・疋田春湖・杉浦重剛《富士山図》 計1件1点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・山元春挙《雪之図 雨之図》 計1件2点 寄贈者：高田英夫（愛知県）
- ・山元春挙《艷姿図》《妓女図》《緑竹図》《竹図広蓋》 計4件4点 寄贈者：中神源一（滋賀県）
- ・渡辺公観《画帖》《書簡》 計2件8点 寄贈者：原道生（東京都）



内藤和子《花》 昭和62(1987)年 1点
紙本著色 52.0×40.2cm



中原甕塘《溪流図》 昭和2(1927)年
1点 油彩・カンヴァス 70.0×49.0cm



岸竹堂《農夫繫牛図》 明治30(1897)年
1点 絹本墨画 129.0×51.1cm

3-6 令和7(2025)年度収集作品 寄贈 現代美術

計 8 件 11 点 評価額 41,575,000円

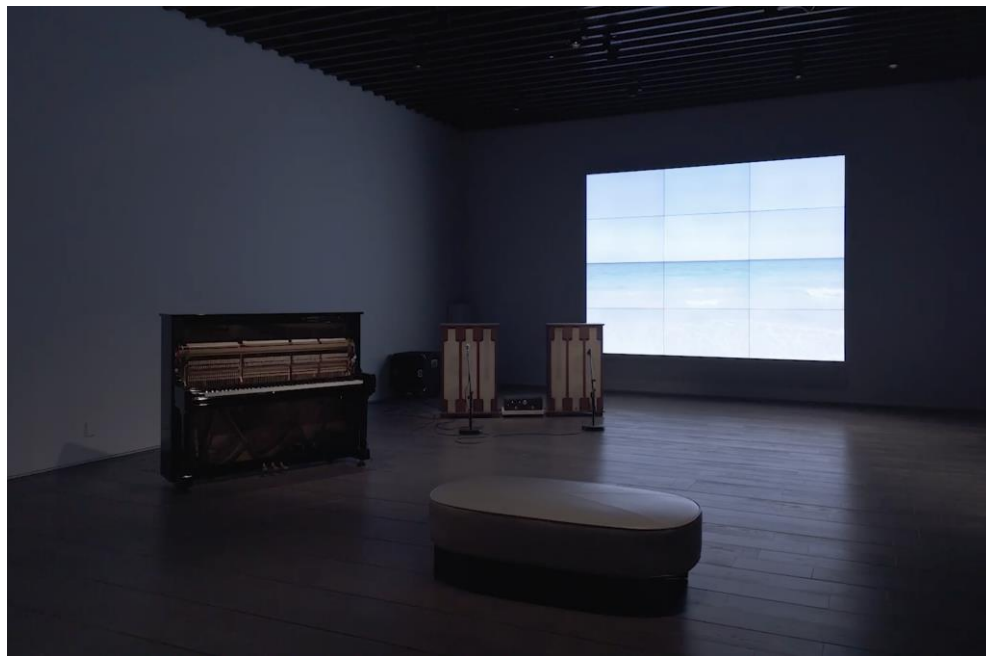
- ・石川順恵《Impermanence 氷面鏡》《Impermanence 春禽 2》 計2件2点 牧寛之（東京都）
- ・大久保紗也《They》 計1件1点 松野広行（宮城県）
- ・岡崎和郎《HISASHI》 計1件1点 岡崎厚子（福島県）
- ・鮫島ゆい《Ritual Room (Pretend to Be Happy)》 計1件3点 牧寛之（東京都）
- ・土取郁香《I and You（とばりがおりて）》 計1件1点 松野広行（宮城県）
- ・松川朋奈《From the outside, it probably looked like nothing was wrong.》 計1件2点 牧寛之（東京都）
- ・毛利悠子《Piano Solo: Makino》 計1件1点 牧寛之（東京都）



石川順恵《Impermanence 春禽 2》令和5(2023)年 1点
アクリル、砂・カンヴァス 195.2×158×4.2cm
Photo: SAIKI



岡崎和郎《HISASHI》1点
昭和58(1983)年 ブロンズ 3.7×32.5×7.0cm



毛利悠子 《Piano Solo: Makino》令和7(2025)年 1点
シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、自動演奏ピアノ（アップライトピアノ）、映像、オーディオ・インターフェイス、マイク サイズ可変、13分11秒

3-7 令和7(2025)年度収集作品 寄贈 アル・ブリュット

計 18件18点 評価額 5,225,000円

- ・鎌江一美 《まさとさん》 計1件1点 寄贈者：平安伸銅工業株式会社（大阪府）
- ・鎌江一美 《ヨーロッパへ一緒に行く私とまさとさん》 計1件1点 やまなみ工房（滋賀県）
- ・篠原尚央 《無題》《無題》《無題》《カキカコ》《カキカコ》《カキカコ》《カキカコ》《カキカコ》
計9件9点 寄贈者：平安伸銅工業株式会社（大阪府）
- ・篠原尚央 《ビンカキカコ》 計1件1点 作家寄贈
- ・吉川秀昭 《目・目・鼻・口》《目・目・鼻・口》 計2件2点 寄贈者：平安伸銅工業株式会社（大阪府）
- ・吉川秀昭 《目・目・鼻・口》《目・目・鼻・口》《目・目・鼻・口》《目・目・鼻・口》
計4件4点 寄贈者：やまなみ工房（滋賀県）



鎌江一美 《まさとさん》平成21(2009)年 1点
陶 34.0×24.5×16.5cm



篠原尚央 《カキカコ》平成21(2009)年 1点
水彩・紙 約53.8×38.8cm



吉川秀昭 《目・目・鼻・口》平成30(2018)-令和5(2023)年頃 1点 陶 22.5×6.2×5.8cm

4 展覧会の開催（令和7(2025)年度）

4 回の企画展※を開催するほか、常設展についても展示ごとにテーマを設定し、通年展示を行った。

区分	名称	展示室	会期	開催日数	観覧者数	1日あたり 観覧者数	有料率 (%)	目標 観覧者数	目標 観覧者数 達成率 (%)	目標 観覧料 達成率 (%)	期間中 来館者数	
企画	落語であーっ！ そこまでやっちゃう？落語と美術の無理矢理コラボレーション	3	4月8日(火)－6月8日(日)	54	4,260	79	47.3	7,000	60.9	46	59,256	
	ザ・キャビンカンパニー展 大絵本美術展〈童堂賛歌〉	3	6月21日(土)－9月7日(日)	68	18,110	266	59.8	15,000	120.7	127.1		
	おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで	3	9月20日(土)－11月16日(日)	50	5,045	101	58.6	12,000	42.0	33.9		
	笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン	3	1月17日(土)－3月22日(日)	13	1,053	81	66.2	12,000				
	第79回 滋賀県美術展覧会	3およびギャラリー	12月4日(木)－12月17日(水)	10	2,515	252	－	－	－	－		
	滋賀県美術協会 第70回記念展	3	3月28日(土)－3月31日(火) (3月28日(土)－4月5日(月))	3 (8)			－	－	－	－		
常設	SMoAコレクションⅠ期 春らんまん！ SMoA春のUKI★UKI 日本美術まつり	1	4月1日(火)－6月15日(日)	250 (300)	28,443	114	39.6	33,333 (40,000)	85.3 (71.1)	22.9 (19.1)		
	SMoAコレクションⅠ期 コレクションに橋をわたす	2										
	小倉遊亀コレクションⅠ期 親しきものを描く	小倉遊亀コーナー										
	SMoAコレクションⅡ期 没後50年 三橋節子と滋賀の風景	1	6月19日(木)－9月7日(日)									
	SMoAコレクションⅡ期 いろんなかたち	2										
	小倉遊亀コレクションⅡ期	小倉遊亀コーナー										
	SMoAコレクションⅢ期 滋賀県立美術館 滋賀県立琵琶湖文化館 名品選	1	9月13日(土)－11月30日(日)									
	SMoAコレクションⅢ期 名品選	2										
	小倉遊亀コレクションⅢ期	小倉遊亀コーナー										
	SMoAコレクションⅣ期 ニューSMoAコレクション	1および2	12月4日(木)－2月23日(月・祝)									
	小倉遊亀コレクションⅣ期	小倉遊亀コーナー										
	SMoAコレクションⅤ期	1									2月25日(水)－3月31日(火)	
	SMoAコレクションⅤ期	2										
	小倉遊亀コレクションⅤ期	小倉遊亀コーナー										
				計	59,426	令和8(2026)年1月末時点 常設()内は年間						

※第79回滋賀県美術展覧会および滋賀県美術協会第70回記念展を除く。

4-1 企画展「落語であっ！と展 そこまでやっちゃう?! 落語と美術の無理矢理コラボレーション」

会期：4月8日（火）—6月8日（日） 会場：展示室 3

落語のストーリーに登場する人、物、風景などに関連する美術作品を紹介することで、落語も美術も味わえる企画展を開催した。滋賀ゆかりの「近江八景」をはじめ、当館のコレクションと親和性が高い落語23演目を選び、それぞれに関連する絵画、工芸、彫刻、映像作品などを展示した。本展の落語監修者として、滋賀県大津市出身の江戸落語の真打、三遊亭わん丈師匠に関わっていただいた。会期中には、落語家による独演会、小中学生対象の落語の所作体験、立命館大学の学生が落語を披露するイベントなどを開催し、落語に関心をもつ人々にとっても展示会が興味深いものとなるよう意識した。展示室内には、ドロップインワークショップとして、羽織、扇子、手ぬぐいを用意し、撮影できる「なりきり、落語家！」を設置した。会期中は、4,260人の来館者があり、落語を通しての意外な作品の組み合わせをお楽しみいただいた。



□落語監修：三遊亭 わん丈

□企画：山田 由希代（滋賀県立美術館 学芸課長）

□イベント：

- ・落語独演会 三遊亭わん丈 5月11日 260名参加
- ・落語独演会 桂三度 5月25日 151名参加
- ・たいけんびじゅつかん 桂優々 5月18日 46名参加
- ・ギャラリートーク 会期中計2回 40名参加
- ・立命館大学落語研究会の連携企画 会期中の土曜日計10回 365名参加



ドロップインワークショップ



展示風景

□記事掲載等：京都新聞、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞、読売新聞、
産経新聞、日曜美術館アートシーン ほか

□主催：滋賀県立美術館、京都新聞

□後援：エフエム京都

□協力：立命館大学落語研究会、北村美術館



立命館大学落語研究会イベント

4-2 企画展「ザ・キャビンカンパニー 大絵本美術展 童堂賛歌」

会期：6月21日（土）—9月7日（日） 会場：展示室 3 ほか

絵本作家・美術家であるザ・キャビンカンパニーの活動を、原画、大型立体作品、映像、滋賀会場独自のインスタレーションなどを通じて包括的に紹介した。平塚市美術館、足利市立美術館、千葉市美術館、大分県立美術館に巡回後、当館での開催という運びとなった。滋賀県会場に合わせた作品も展示した。作家のデビューから15年の足取りを俯瞰的に紹介した他、アーティスト本人による読み語りやワークショップ等の関連事業を多角的に展開した。展示室外には、ドロップインワークショップとして、作家が準備したぬり絵、絵本コーナー、よみ語り劇場を設置した。会期中に18,110名の来館者があった。



□担当：山田 創（滋賀県立美術館 学芸員）

□イベント：

- ・ザ・キャビンカンパニーによる絵本読み語り＆サイン会 6月21日 109名参加
- ・アートにどぼん！たいけんびじゅつかん 6月22日 25名参加
- ・担当学芸員によるギャラリートーク（子ども向け） 6月28日（一般向け） 7月20日、8月7日 各回20名程度

□記事掲載等：毎日新聞、京都新聞、中日新聞、月刊MOE、螢雪時代など

□主催：滋賀県立美術館、京都新聞

□特別協賛：株式会社 海地獄、株式会社 タバタホールディングス、
株式会社 明治、生活協同組合コープおおいた

□後援：エフエム京都

トピックス2： 会期中の関連イベント

「美術館の夏祭り」では、作家のザ・キャビンカンパニーが滞在。読み語りではギャラリーを埋め尽くすほどの大盛況となり、お面づくりのワークショップも多くの方に参加いただいた。



展示風景



ドロップインワークショップ

4-3 企画展「おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで」

会期：9月20日（土）—11月16日（日） 会場：展示室 3

滋賀県を会場に、第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会が開催されることを機に、「散歩」をキーワードに「歩く」という運動＝行動に注目する展覧会を開催した。日本で初めて「散歩」の語を用いたとされる漢詩文集『済北集』をはじめ、仏教の遊行や禅の修行としての経行、近代に野や街に出かける散歩、動物たちも歩く様子、散歩で出会った風景が表された作品など、中世から現代にいたるさまざまな「散歩」の光景を、重要文化財 2 件を含む74作品によって紹介した。会場に続く回廊では「おさんぽすごろく」を設置して展示内容へのゆるやかな導入を試み、会期中を通して、すごろくを楽しむ来館者の姿が見られた。展示室外には、ドロップインワークショップ「Let's おさんぽ」を実施して散歩写真を募集し、会期中に30名45点の応募があった。展覧会鑑賞用のセルフガイドは、会期中に1,695枚を配布した。



□企画：小井川 理（滋賀県立美術館 主任学芸員）

□イベント：

- ・きままにおさんぽ会 10月4日 5名参加
（講師：龍谷大学 先端理工学部 環境科学課程 准教授 横田岳人氏）
- ・光島貴之のさわれる対話鑑賞 10月13日 17名参加
光島貴之のスペシャルトーク 10月13日 22名参加
（講師：光島貴之氏、アトリエみつしま 高内洋子氏、亀井友美氏）
- ・たいけんびじゅつかん「美術館をおさんぽしよう！」10月5日 16名参加、11月16日 9名参加
- ・ギャラリートーク 9月27日 21名参加、10月11日 22名参加、10月25日 20名参加
- ・プチギャラリートーク 10月4日 12名参加、11月1日 9名参加、11月6日 3名参加、
11月7日 8名参加、11月12日 10名参加、11月13日 7名参加
- ・滋賀ダイハツアリーナ×滋賀県立美術館地域連携講座 11月5日 1名参加

□記事掲載等：京都新聞、中日新聞、毎日新聞、NHK（地域ニュース）、その他web媒体

□主催：滋賀県立美術館、京都新聞

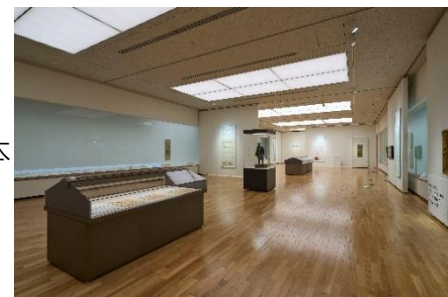
□後援：エフエム京都



ドロップイン
ワークショップ



おさんぽすごろく



展示風景

4-4 企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」

会期：令和8年1月17日（土）－3月22日（日）

会場：展示室 3 ほか

現在、滋賀県を拠点に活躍している笹岡由梨子の美術館での初めての個展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」を開催している。本展では、笹岡の作品における、映像とキャラクターの関係性を軸に、最初期の作品から近年発表された近作、そしてこの展覧会のために制作された新作《タイマツ》まで、全10点を展示。また、出品作のひとつで昨年度収蔵した《LOVERS》（2024）は、展覧会に合わせて当館木のホール前に常設した。加えて、カタログは笹岡初の作品集として構成し、展覧会の開幕と同時に一般流通している。展示室外には、作家が考案したドロップインワークショップコーナーを館内3か所に設置している。本展は株式会社メルコグループからの企業版ふるさと納税を活用している。加えて株式会社メルコグループは、ふるさと納税以外にもアーティストの新作制作や、当館収蔵作品《LOVERS》の展覧会に合わせた常設設置に対しても支援を行っているため、主催にも入っていただいている。

□笹岡由梨子：昭和63(1988)年大阪府生まれ。平成26(2014)年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程メディア・アート領域満期退学。京都府文化賞奨励賞（令和2(2020)年）、咲くやこの花賞（令和2(2020)年）、Kyoto Art for Tomorrow 2019—京都府新鋭選抜展最優秀賞など、受賞多数。現在、滋賀県拠点。

□企画：荒井 保洋（滋賀県立美術館 主任学芸員）

□イベント：

・スペシャル・トーク 1月31日開催 100名参加

・学芸員によるギャラリートーク 1月24日 16名参加、2月7日 20名参加、
2月21日 20名参加

・たいけんびじゅつかん 2月14日 11名参加

・「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」のつくり方（京都開催）2月22日 37名参加

□記事掲載等：京都新聞、美術手帖、Tokyo Art Beat、Ocula、Frieze、Art Review ほか

□主催：滋賀県立美術館、京都新聞、株式会社メルコグループ

□協力：ディブ・バンコク、アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート（IAM）

□後援：エフエム京都



展示風景

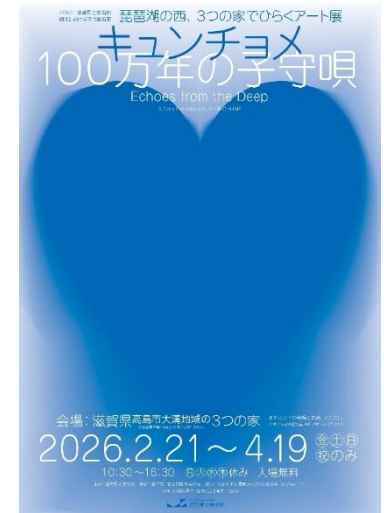


ドロップインワークショップ

4-5 湖北における現代美術展「ASK01 キンチョメ 100万年の子守唄」

会期：令和8年2月21日（土）—4月19日（日） 会場：高島市大溝地域

琵琶湖の西岸、高島市大溝地区の3つの民家で、キンチョメの展覧会を開催している。キンチョメは、ホンマエリとナブチの2人からなるアートユニット。キンチョメは、悠久の時間を刻み、人々やあらゆる生き物を見守り続ける琵琶湖の存在を「100 万年の子守唄」になぞらえた。本展では、このテーマのもと、新作も交えたキンチョメの映像作品や立体作品、ドローイング作品などを紹介する。この展覧会は、滋賀県立美術館が琵琶湖の北側地域（湖北）で始める新たなプロジェクト「ASK」の第一弾である。ASK は「アート・スポット・イン湖北（Art Spot in Kohoku）」の略で、令和7(2025)年度から3年間かけて、高島市、米原市、長浜市を順番に巡るもので、アートを通して、みなさんの心に何かを問いかける（ask）ためのプロジェクトでもある。



□企画：真山 陽理子（滋賀県立美術館 学芸員）

□イベント：

- ・ワークショップ「花になる」 2月22日開催予定（定員15名）
- ・学芸員による展示解説とまちあるきツアー 3月7日、3月22日開催予定（定員各回10名程度）
- ・ワークショップ「愛のための刺繍 ～犬をふわふわにする会～」 4月19日開催予定（定員10名）
- ・アーティストトーク 4月19日開催予定（定員50名）

会場民家 3 軒

□記事掲載等：Tokyo Art Beat、WEB版美術手帖、美術展ナビ、アートアジェンダ ほか

□主催：滋賀県立美術館

□協力：大溝の水辺景観まちづくり協議会、株式会社澤村、
西日本旅客鉄道株式会社

□後援：高島市、高島市教育委員会



4-6 常設展

□展示室 1 4つのテーマを設け、当館の収蔵品を中心に、郷土ゆかりの日本画や工芸、洋画作品の展示を行った。

・「春らんまん！ SMOA 春のUKI★UKI 日本美術まつり」

3月25日(火)ー 6月15日(日) 出品件数 18件

・「没後50年三橋節子と滋賀の風景」6月19日(木)ー 9月7日(日) 出品件数 23件

・「滋賀県立美術館 滋賀県立琵琶湖文化館 名品選」

9月13日(土)ー11月30日(日) 出品件数 27件

・「ニューSMoAコレクション」12月4日(木)ー 2026年2月23日(月・祝) 出品件数 67件



□展示室 2 館蔵品を中心とする展示を、4テーマで開催した。

・「コレクションに橋をわたす」 4月1日(火)ー 6月15日(日) 出品件数 34件

・「いろんなかたち」 6月19日(木)ー 9月7日(日) 出品件数 50件

・「名品選」9月13日(土)ー11月30日(日) 出品件数 32件

・「ニューSMoAコレクション」12月4日(木)ー令和8(2026)年2月23日(月・祝)

出品件数 54件



□小倉遊亀コーナー 大津市出身の日本画家、小倉遊亀の作品を4つの会期で紹介した。

・「小倉遊亀コレクションⅠ期」4月1日(火)ー 6月15日(日) 出品件数 15件

・「小倉遊亀コレクションⅡ期」6月19日(木)ー 9月7日(日) 出品件数 13件

・「小倉遊亀コレクションⅢ期」9月13日(土)ー 11月30日(日) 出品件数 12件

・「小倉遊亀コレクションⅣ期」12月4日(木)ー令和8(2026)年2月23日(月・祝)

出品件数 11件



展示風景

5 教育・交流事業

5-1 対話鑑賞プログラム

当館ボランティアがファシリテーターを務め、参加者が気づいたことや注目したことを言葉にしながら作品の魅力を楽しむプログラム。令和6(2024)年4月からプログラムをスタートさせ、毎週土曜、日曜に1日2回、常設展で開催している。令和6(2024)年度に育成中であったボランティアもデビューし、現在18人のボランティアがファシリテーターとして活動している。

プログラム実施状況と実績（令和8(2026)年1月31日現在）

□開催日：毎週 土曜、日曜（休館日を除く）

□時間：1回目 11:00～11:30

2回目 13:00～13:30

□定員：各回10名程度

□対象：どなたでも（事前申込不要）

□参加料：無料

□ファシリテーター（ボランティア）の人数：18人

□取り上げた作品：現代美術 51.5%

小倉遊亀 18.3%

日本画・郷土美術 30.2%

アール・ブリュット 0%

□お客様の声：同じものを見ても人によって感じ方が違うということを体験できてよかった。椅子に座ってじっくり見ることができた。

□ボランティアの声：対話鑑賞のために来館してくださるリピーターが少しずつ増えてきているように思う。

実施回数	参加者人数
169	703 (うち中学生以下が69人)



1回の対話鑑賞の参加者／平均4.1人



様々な年齢の方が参加している様子

5-2 スクールプログラム

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの学校団体鑑賞の受け入れや、出前授業、教材の貸し出しをおこなっている。令和6(2024)年度に引き続き、滋賀県立東大津高等学校※1年生の学校団体鑑賞で、ほぼ全員(336人)が対話鑑賞を体験し、10月には生徒がファシリテーターを務める対話鑑賞を展示室で実施した。ギャラリーで毎年夏休みに開催される「中学美術部展」では、24校640人の生徒が来館し、ギャラリーのほか常設展や企画展も観覧した。なお、貸し出し用教材については、令和6(2024)年度で1件（特別支援学校）、令和7(2025)年度で1件（大学）と実績が振るわない。アートカードなどの教材の内容も平成16(2004)年に作成してから更新していないので、今後学校に意見を伺いながら、貸し出しする教材の内容の検討をしていきたい。

プログラム実施実績（令和8(2026)年1月31日現在）

区 分		令和6(2024)年度				令和7(2025)年度				内容
		件数		参加者数		件数		参加者数		
		内 訳	合計	内訳	合計	内 訳	合計	内訳	合計	
①学校団体鑑賞	小	7	43	393	1,605	5	42	337	1,495	常設展、企画展、彫刻の庭 の鑑賞およびワークショップ （希望団体のみ）の開催。 滋賀県内の小学校・中学 校・高等学校・特別支援学 校などの生徒、引率者の観 覧料が免除される。
	中	25		665		26		701		
	高	10		537		4		350		
	特	1		10		7		107		
②学校出前授業	小	12	16	323	366	9	13	361	469	アートゲームなどの鑑賞教育 や創作体験のできるワーク ショップの出前授業と学芸 員による講座がある。職員 の派遣は無料。ワークショ ップは無料のものと材料費 がかかるものがある。
	中	0		0		1		17		
	高	1		33		1		38		
	特	3		10		2		53		



学校団体鑑賞



滋賀県立東大津高校の生徒が対話鑑賞をしている様子

※滋賀県立東大津高等学校とは、令和7(2025)年3月12日に連携協定を締結。

5-3 地域連携

市や町が主催するイベントでのワークショップや、生涯学習センター、大学等からの依頼を受けて連携するイベント、学芸員による講座などをおこなっている。令和7(2025)年度は、大阪・関西万博や湖北でのイベントでワークショップを開催した。

プログラム実施実績（令和8(2026)年1月31日現在）



「大阪・関西万博」でのワークショップの様子

区分	連携先	内容	参加人数		
			子ども	大人	合計
ルシオール アート キッズ フェスティバル	守山市	ワークショップ：名画でびっくりコラージュ 古今東西の名作が印刷された台紙に、素材の写真を切って貼って作品をつくるワークショップ	190	95	285
2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の「滋賀魅力体験ウィーク～Discover Shiga, Go Lake Biwa～」(6月、9月の2回実施)	滋賀県	ワークショップ：ハンコで描こう！妖怪たちの大行進！ 当館が所蔵する《妖怪》の作者の鵜飼結一朗氏がワークショップのために描いた絵柄から作成したハンコを用いてのワークショップ。	67	478	545
こほくキッズミュージアム	滋賀県	ワークショップ：ハンコで描こう！妖怪たちの大行進！ 当館が所蔵する《妖怪》の作者の鵜飼結一朗氏がワークショップのために描いた絵柄から作成したハンコを用いてのワークショップ。	183	22	205
アートフェスタくさつ	草津市	ワークショップ：名画でびっくりコラージュ 古今東西の名作が印刷された台紙に、素材の写真を切って貼って作品をつくるワークショップ	224	56	280
草津市美術展覧会 関連イベント	草津市	ワークショップ：名画でびっくりコラージュ 古今東西の名作が印刷された台紙に、素材の写真を切って貼って作品をつくるワークショップ	3	18	21
滋賀大学 アート思考「対話鑑賞体験」	滋賀大学	学芸員による講義：対話鑑賞の体験 経済学部およびデータサイエンス学部の学生を対象とした講義。 対話鑑賞を体験した後に、作品についての気づきをグループでディスカッションする。	0	48	48

5-4 ボランティア

令和4(2022)年に登録した1期21人と令和6(2024)年に登録した2期19人のボランティア40人が4つの活動をしている。複数の活動に登録しているボランティアも多い。大阪・関西万博でのワークショップなどの館外での活動にも参加していただいた。令和7(2025)年9月には対話鑑賞ボランティアを対象にファシリテーターのフォローアップ研修を開催した。

□ボランティアの年齢構成：20代 2人、30代 2人、40代 4人、50代 5人、60代 17人、70代 9人、80代 1人

□活動実績（令和8(2026)年1月31日現在）

区分	登録人数	活動日数	活動内容
①学校団体ガイドボランティア	20	12	学校団体鑑賞で5～10人の生徒と一緒に常設展、企画展、彫刻の庭をまわる。生徒たちから言葉をひきだすような問いかけのあるガイドを心掛けている。
②ワークショップボランティア	29	33	美術館主催のワークショップにスタッフとして参加。美術館外で実施される地域連携でのワークショップにも参加し、子どもたちのサポートをする。
③資料整理ボランティア	21	77	毎週火曜、土曜に活動。美術館に届く書籍の登録や整理と、新聞や雑誌から所蔵作家などについての記事を切り抜き、ファイリングをしている。
④対話鑑賞ボランティア	19	86	毎週土曜、日曜の対話鑑賞プログラムでファシリテーターを務める。令和7(2025)年4月に2期の18人がファシリテーターデビューをした。



万博でのワークショップでスタッフをするボランティア



対話鑑賞のファシリテーターのフォローアップ研修の様子

5-5 ワークショッププログラム

美術館が企画・実施する展覧会やコレクション、季節に関連付けた創作体験プログラムを通年で開催している。また、美術館内でいつでも参加できる「館内ぐるっと！ワードハンター」は、館内に隠された11文字を見つけると缶バッジがもらえる子どもたちに人気のプログラムで、令和7(2025)年の文字は美術館に収蔵されている作品の数を紹介するものになっている。

プログラム実施実績（令和8(2026)年1月31日現在）

	プログラム名	開催日	参加人数
1	レッツ・チョークアート！地面いっぱい絵を描こう！（みどりのつどい）	5月4日(日)	365
2	ぐるっと公園アートサファリ(みどりのつどい)	5月4日(日)	82
3	たいけんびじゅつかん「落語を楽しもう！」	5月18日(日)	46
4	たいけんびじゅつかん「"あのか"を描こう」	6月22日(日)	25
5	わたし流・作品スケッチ大会①	7月19日(土)	6
6	わたし流・作品スケッチ大会②	7月20日(日)	14
7	夏休み文化ゾーン探検隊	7月25日(金)	37
8	わたし流・作品スケッチ大会③	7月26日(土)	13
9	わたし流・作品スケッチ大会④	7月27日(日)	10
10	たいけんびじゅつかん「美術館をおさんぽしよう！」	10月5日(日)	16
11	レッツ・チョークアート！地面いっぱい絵を描こう！（文化ゾーンフェスティバル）	11月3日(月・祝)	118
12	ぐるっと公園アートサファリ(文化ゾーンフェスティバル)	11月3日(月・祝)	55
13	たいけんびじゅつかん「美術館をおさんぽしよう！」	11月16日(日)	9
14	未就学児向けワークショップ「冬のおたよりを届けよう！」	12月6日(土)	17
15	館内ぐるっと！ワードハンター	通年	1,469
合計			2,282



たいけんびじゅつかん「"あのか"を描こう」で制作する子どもたち



夏休み文化ゾーン探検隊

企画展ごとに開催したドロップインワークショップについては、各企画展のページに記載。

6 SMOAやわらか大計画

当館ではこれまで美術館に何らかの理由で訪れにくかったり利用しづらかったりする方に対して、どのようにすれば利用しやすくなるかを考え、さまざまな取り組みをしている。令和7(2025)年度からは、社会的処方観点から美術館が人と地域のつながりを促進する資源となるため、「SMoAやわらか大計画」として包摂的な取り組みを始めた。この取り組みにより、孤立や生きづらさといった社会的課題の解決や、人々の健康や幸福感の向上に対して美術館が寄与することを目指している。なお、「SMoAやわらか大計画」は「みんなをウェルカムする計画」「一緒にテーブルにつく計画」「新しくトライする計画」の3つを軸にして展開している。

6-1 みんなをウェルカムする計画

障害の有無にかかわらず、誰もが必要な情報を受け取り、アクセスしやすくなるようにする。

- ・触図の展示やスクリプト（文字起こし）の作成
- ・常設展の開設キャプションの改革
- ・チラシなどに来館を迷っているお困りごとのある方へのメッセージ
- ・カームダウン・クールダウンスペースの常設（利用数：耳栓85、アイマスク49）



カームダウン・クールダウンスペースを
展示室3近くに常設



高齢者施設との試行の様子

6-2 一緒にテーブルにつく計画

美術館にアクセスしづらさを感じている人、支援している人たちと一緒に考えながら取り組む。

- ・知的障害、発達障害のある方との対話鑑賞の研修
- ・ソーシャルストーリーの作成に向けての聞き取り（3月実施予定）
- ・視覚障害のある方との鑑賞方法の研修（3月実施予定）



フリースクールの子どもたちが来館

6-3 新しくトライする計画

いろいろな施設や当事者の方に協力いただきながら、新しいプログラムを開発していく。

- ・高齢者施設との試行（4回の実施、3月にも予定）
- ・フリースクールとの試行（2施設3回の実施、3月にも予定）
- ・子ども若者支援施設との試行（1回の実施）
- ・失語症の方との対話鑑賞の試行（3回の実施、3月にも予定）
- ・病院に併設する特別支援学校での試行（1回の実施）



失語症の方との対話鑑賞

7-1 情報発信・広報①

□プレスリリース

令和7年度は、以下のとおり27本のプレスリリースを発出した（予定を含む）。展覧会を軸としつつ、それ以外の事業についても、積極的な発信に努めた。
内訳は、企画展9本、常設展2本、館外展示3本、連携事業（イベント、展示）5本、整備基本計画2本、イベント3本、その他3本。
県政記者クラブ（31媒体）にリリースを行うとともに、これまでに名刺交換等を行った記者等にメール添付で送付するほか、当館のHPに掲載し周知を図った。
なお、備考に「●」の入っているリリース（企画展および館外展示）は、ARTPRによるオンラインプレスリリース配信サービス（約2,000媒体へ配信）を活用している。

	リリース日	タイトル	備考
1	2025年4月2日	企画展「落語であーっ！と展そこまでやっちゃう？ 落語と美術の無理矢理コラボレーション」プレス内覧会を4月7日（月）に開催します！	●
2	2025年4月15日	県立美術館と県立東大津高等学校との連携事業～1年生全員が対話鑑賞を体験します！～	
3	2025年5月14日	企画展「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」	●
4	2025年6月5日	滋賀県立美術館は、国立アートリサーチセンターが実施する「アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム（JUMP）」に参加します！	
5	2025年6月17日	企画展「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」プレス内覧会を6月20日（金）に開催します！	●
6	2025年6月19日	常設展「没後50年 三橋節子と滋賀の風景」	
7	2025年6月20日	滋賀県立美術館は今年も託児を実施します！	
8	2025年7月11日	県内の小中高生が主役！「もっと行きたい美術館」を考えるワークショップを開催	県文化芸術振興課美の魅力発信推進室と連名でリリース
9	2025年7月24日	企画展「おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで」	●
10	2025年7月28日	国スポ・障スポの文化プログラムとして実施！「スポーツの造形展 秩父宮記念スポーツ博物館コレクション」	
11	2025年8月8日	みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！を開催します。	
12	2025年8月22日	「ナイトミュージアムKANSAI」の実施について～美術館・博物館が経済界と連携し、新たな夜の価値を創出～	BIZ+MUSEUM KANSAI 実行委員会としてリリース
13	2025年9月12日	滋賀県立美術館常設展 滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展「滋賀県立美術館 滋賀県立琵琶湖文化館 名品選」	
14	2025年9月16日	企画展「おさんぽ展 空也上人から谷口ジローまで」プレス内覧会を9月19日（金）に開催します！	●
15	2025年9月19日	笹岡由梨子さんの美術館での初個展を開催します！企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」2026年1月17日（土）～3月22日（日）	●
16	2025年9月30日	県立美術館と県立東大津高等学校との連携事業～「対話鑑賞を用いた作品研究」を初めて実施し、代表の生徒が県立美術館でファンリテーターに挑戦します！～	
17	2025年10月10日	県立美術館で開催中の企画展「おさんぽ展」の関連イベント 出展作家の光島貴之さんによる“さわれる対話鑑賞”＆スペシャルトークを開催！	
18	2025年10月14日	令和7年度 滋賀県立美術館 ナイトミュージアム第2弾 ビジネスパーソン向け夜の鑑賞プログラムを実施します！	2026年1月20日にNHKおはよう日本で放送
19	2025年10月16日	国立印刷局工芸官の企画展を10/28（火）から11/24（月・振休）まで開催「おれを彩る模様の魅力～見れば見るほど面白い～」	独立行政法人国立印刷局と連名でリリース
20	2025年11月18日	Art Spot in Kohoku（ASK）始動～滋賀県美が湖北地域で現代美術展を開催します！第1弾の招聘アーティストはキュンチョメに決定！～	●
21	2025年12月23日	滋賀県立美術館整備基本計画(素案)への意見募集	県文化芸術振興課美の魅力発信推進室と連名でリリース
22	2025年12月26日	企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」2026年1月17日（土）～3月22日（日）	●
23	2026年1月9日	企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」プレス内覧会を1月16日（金）に開催します！	●
24	2026年2月3日	ASK01 滋賀県立美術館 湖北における現代美術展「キュンチョメ 100万年の子守唄」2026年2月21日（土）～4月19日（日）	●知事定例記者会見で発表
25	2026年2月16日	ASK01 滋賀県立美術館 湖北における現代美術展「キュンチョメ 100万年の子守唄」オープニングセレモニーを2月21日（土）に開催します！	●
26	2026年3月上旬（調整中）	企画展「ためして、みる展」2026年4月17日（金）～6月21日（日）	●
27	2026年3月下旬（調整中）	令和7年度新収蔵作品（仮）	

□展覧会（企画展および館外展示）の広報

- 基本的には、開幕前日もしくは当日に、プレス向け説明会および招待者・関係者等によるオープニングセレモニー、内覧会を実施する。ただし、当館のコレクションをベースにした企画展（令和7年度であれば「落語であーっ！と展！」）は、プレス向け説明会のみ開催する
- 「ザ・キャビンカンパニー展」以降、InstagramのDM（ダイレクトメッセージ）を通して、インフルエンサーへのアプローチを行っている。
- 展覧会ごとに、詳細を記載したプレスリリースとプレス向け説明会に焦点を絞った直前のプレスリリースの2本立てを基本とし、状況により速報版のプレリリースを発出する。
- 展覧会ごとに、訴求対象などを検討し、有料広告を選定する。
- 当館のオウンドメディアであるHPやSNS（X、Instagram）を積極的に活用する。

- ・ 報道機関からの取材申請等への対応
- ・ 美術館や博物館、文教施設等へのチラシ等の郵送
- ・ SNS（X、Instagram）での発信
 - 2/24時点のフォロワー数（カッコ内は昨年同時期）
 - X：9,602人（9,049人）
 - Instagram：8,360人（6,562人）
- ・ びわこ文化公園内の案内表示（館外展示を除く）
- ・ 最寄りのJR瀬田駅構内のチラシラックへの配架

NHK日曜美術館アートシーン、朝日新聞、京都新聞、産経新聞、中日新聞、毎日新聞、読売新聞、InRed、月間MOE、SAVVY、美術展ナビ



京都新聞、中日新聞、びわ湖大津経済新聞、堂雪時代、SAVVY、月間MOE、アートアジェンダ、WEB版美術手帖、ピースマム、ファッションプレス



7-1 情報発信・広報③

□ 展覧会（企画展および館外展示）の広報

企画展「おさんぽ展」

□ セレモニー等

2025年9月19日にプレス向け説明会、オープニングセレモニー、内覧会を開催

□ プレリリース

2025年7月24日（詳細版）、2025年9月16日（プレス向け説明会に特化した案内）

□ 有料広告

帝産バス車内広告、エフエム京都ラジオ広告、リビング滋賀記事広告、雑誌『湖国と文化』純広告（カラー1ページ）、雑誌『散歩の達人』純広告（カラー1ページ）、雑誌『時空旅人』純広告（カラー1ページ）、京阪電車石坂線等駅貼り（5駅各4週間、4駅各5週間）

□ 主な掲載記事等

京都新聞、中日新聞、毎日新聞、月刊ギャラリー、月間MOE、クラシズム、SAVVY、美術の窓、アートアジェンダ、WEB版美術手帖、コミックナタリー、美術展ナビ



企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」

□ セレモニー等

2026年1月16日にプレス向け説明会、オープニングセレモニー、内覧会、レセプションパーティーを開催

□ プレリリース

2025年9月19日（速報版）、2025年12月26日（詳細版）、2026年1月9日（プレス向け説明会に特化した案内）

□ 有料広告

帝産バス車内広告、エフエム京都ラジオ広告、WEBメディア・Tokyo Art Beat記事広告、雑誌『芸術新潮』純広告（カラー1ページ）、WEB版美術手帖アップバー広告（2週間）、SNS（X、Instagram）広告、耳で聴く美術館（Instagramリール・YouTube・Tiktok）での動画投稿、

□ その他広報を目的とした取組

MEDIA SHOP（京都）でのイベント開催（『笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン』のつくり方）、国際的な美術メディア（ArtReview、Frieze、Ocula、）のライター招聘

□ 主な掲載記事等

朝日新聞、京都新聞、読売新聞、InRed、WEB版美術手帖、SAVVY、日経おとなのOFF、美術の窓、PEN、Tokyo Art Beat、美術展ナビ、MEET YOUR ART



ASK01 滋賀県立美術館 湖北における現代美術展「キュンチョメ 100万年の子守唄」

□ セレモニー等

2026年2月21日にプレス向け説明会、オープニングセレモニー、内覧会を開催

□ プレリリース

2025年11月18日（速報版）、2026年2月3日（詳細版）、2026年2月16日（プレス向け説明会に特化した案内）

□ 有料広告

You Tubeチャンネル「MEET YOUR ART」での動画配信

□ 主な掲載記事等

アートアジェンダ、WEB版美術手帖、QUI、スフスマート、Tokyo Art Beat、美術展ナビ、ミーツ・リージョナル、MEET YOUR ART



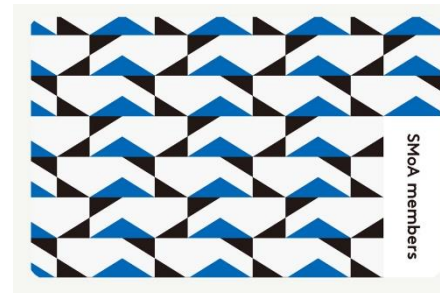
7-2 県美メンバーズ（年間パスポート会員）の運営

美術館の固定ファン、リピーターを拡大するために導入した年間パスポート会員制度「滋賀県美メンバーズ」について、会員向けに展覧会情報の提供を行った。この制度に関するアンケートを実施したところ、更新手続きや会員証のオンライン化を望む声が多かったことから、検討を進めたい。

□会員数：810人（うち高大生33人、小中生47人）（令和8(2026)年1月31日現在）
約8割が滋賀県民（中でも美術館近隣の天津市南部や草津市在住者が多い）

□年会費：大人2,500円、高校大学生1,650円、小中学生1,250円

□特典：メールニュース（39回）、展覧会情報郵送、館内カフェ利用割引 等



7-3 サポーター（寄付）制度

企業や県民から幅広く支援いただき、運営を充実していけるよう、寄付制度を設けている。

令和7(2025)年度収入済額3,360,000円（令和8年(2026)1月31日現在）

□法人サポーター

・無料観覧デー・サポーター〈25万円／四半期〉：(株)木の家専門店 谷口工務店、
(一社)インダ三方良しの会・(株)インダ

・次世代育成サポーター〈100万円／年〉：

・プラチナサポーター〈50万円／年〉：(株)村田製作所 野洲事業所

・ゴールドサポーター〈30万円／年〉：(公財)平和堂財団、(株)滋賀銀行、(株)澤村

・サポーター〈10万円／年〉：

(株)クマヒラ大津営業所、帝産湖南交通(株)、滋賀県信用保証協会

□個人サポーター

・ゴールドサポーター〈3万円／年〉：3名

・サポーター〈1万円／年〉：9名

トピックス3:

「谷口工務店フリーサンデー」と 「インダフリーサタデー」

無料観覧デー・サポーターの企業の名前を冠し、令和4年(2022)7月3日から毎週日曜日は「木の家専門店 谷口工務店フリーサンデー」として、更に令和6(2024)年10月1日からは、毎週土曜日も「インダフリーサタデー」として、どなたに対しても常設展示を無料開放している。

毎週土曜・日曜には対話鑑賞を実施していることもあり、平均240人の利用がある。

図書館利用や公園に遊びに来たついでなど、特に、小さな子どもを連れた家族連れの姿が多く見られるのが特徴であり、気軽に美術館を体験するきっかけとなっている。

8 連 携

8-1 教育機関・企業等・国の機関・独立行政法人・市町等との連携強化

□ 教育機関との連携

- ◆ 県立東大津高等学校 保坂ディレクターが学校評議員に就任（R5～）
- ◆ 県立東大津高等学校 講演会と対話鑑賞、展示鑑賞を組み合わせた連携授業（1年生対象）の実施 4/15、4/17、4/18
- ◆ 県立東大津高等学校 上記連携授業の発展形として、対話鑑賞を用いた作品研究（1年生対象）の実施
 - ①ラーニング担当学芸員が作品研究のガイダンスを行う 9/8
 - ②生徒が各自来館し、作品研究を行う作品を選ぶ 9/13～9/18
 - ③対話鑑賞の体験を生かし、各自で作品研究を行う 9/13～9/19
 - ④授業の中でプレゼンテーションを行う 9/22
 - ⑤代表者が美術館で対話鑑賞のファシリテーターをつとめる 10/1、10/2

※県立東大津高等学校（美術館から徒歩約5分に立地）とは、令和7(2025)年3月12日に連携協定を締結

- ◆ 立命館大学 企画展「落語であーっ！と展」の関連イベントとして、立命館大学落語研究会が会期中の毎週土曜日と6/1に高座を開催（計10回）
- ◆ 龍谷大学 企画展「おさんぽ展」の関連イベント「きままにおさんぽ会」の企画や当日の運営を、龍谷大学先端理工学部の横田岳人准教授と協働して実施
- ◆ 龍谷大学 企画展「おさんぽ展」の開催に合わせて、龍谷大学ボランティア・NPO活動センターで活動されている学生が、美術館から最寄りのJR瀬田駅までのお散歩マップを作成（企画展入口前など館内で配架）
- ◆ 龍谷大学 龍谷大学の学生プロジェクト（S-Project）が企画展4本を取材し、YouTubeで動画を公開

□ びわこ文化公園連携

- ◆ 県立図書館 企画展「ザ・キャビンカンパニー展」の開催に合わせて、県立図書館の児童室で関連書籍を紹介

8-1 教育機関・企業等・国の機関・独立行政法人・市町等との連携強化

□ 企業等との連携

- ◆ 公益社団法人びわこビクターズビューロー 保坂ディレクターが理事に就任（R3～）
- ◆ 文化経済フォーラム滋賀 保坂ディレクターが幹事に就任（R3～）
- ◆ 平和書店（県内店舗）、ハイパーブックス（県内店舗）、大垣書店フォレオ大津一里山店、ジUNK堂滋賀草津店
企画展「ザ・キャビンカンパニー展」に合わせて、店頭でのフェア開催
- ◆ 滋賀ダイハツアリーナ 企画展「おさんぽ展」関連イベントとして、
滋賀ダイハツアリーナ×滋賀県立美術館 連携イベント
（滋賀ダイハツアリーナ 第79回地域連携講座）を開催 11/5
- ◆ 公益財団法人平和堂財団（ゴールドサポーター） 当館ギャラリーにて、「第31回新進芸術家美術展」を開催 10/30～11/9
ミュージアムコンサート（企画展「おさんぽ展」関連イベント）を開催 11/2
- ◆ 株式会社澤村（ゴールドサポーター） 美術館バックヤードツアー＆対話鑑賞を開催 1/24
（建築やアートに興味のある大学生・専門学生を対象としたプログラム）
- ◆ 株式会社村田製作所野洲事業所（プラチナサポーター） 所蔵作品の保管・修復等に対する学芸員の指導助言
従業員向けレクチャー等開催（予定）
作品展開催検討
- ◆ 一般社団法人イシダ三方良しの会/株式会社イシダ
（無料観覧デー（フリーサタデー）サポーター） 『暮らしの中にある「はかり」絵画展』 3/17～3/29（予定）
同展会期中に、小中学生向けのワークショップや演劇などを開催予定
次回以降の審査員紹介および審査に関する情報提供

□ 市町との連携

- ◆ 守山市 「ルシオール・アート・キッズフェスティバル」でワークショップを実施 5/18
- ◆ 草津市 「アートフェスタくさつ」でワークショップを実施 10/18
- ◆ 草津市 草津市展関連イベントとしてワークショップを実施 11/16

8-1 教育機関・企業等・国の機関・独立行政法人・市町等との連携強化

□ 国の機関・独立行政法人との連携

- ◆ 大津家庭裁判所 保坂ディレクターが委員会委員（学識経験者）に就任（R5～）
 - ◆ 国立アトリサーチセンター 当館学芸員とオーストラリア（シドニー）の美術館のキュレーターとの共同調査研究
（独立行政法人国立美術館）（JUMP：アーティスト＋キュレーター国際協働プログラム事業）
 - ◆ 独立行政法人国立印刷局 当館ラボにて、「お札を彩る模様の魅力～見れば見るほど面白い～」を開催 10/28～11/24
国立印刷局工芸官によるワークショップや彫刻実演を実施 11/3
 - ◆ 秩父宮記念スポーツ博物館 当館ギャラリーにて、「スポーツの造形展 秩父宮記念スポーツ博物館コレクション」を開催
（独立行政法人日本スポーツ振興センター） 9/27～10/26
秩父宮記念スポーツ博物館学芸員によるギャラリートークを開催 9/27、10/11、10/25
- ※ 令和7(2025)年度に本県で開催した「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」の文化プログラムとして開催

□ 文化施設・団体との連携

- ◆ 県立びわ湖ホール 保坂ディレクターが運営財団の評議員に就任（R3～）
 - ◆ 県立陶芸の森 保坂ディレクターが理事に就任（R4～）
 - ◆ 県立琵琶湖文化館 相互の学芸員の研究交流等
 - ◆ 美の魅力発信 5 館ネットワーク ネットワーク会議 10/2
職員交流会（安土城考古博物館視察） 11/13
県立施設 5 館の学芸員が収蔵作品の魅力などを語る動画コンテンツを作成予定
- ※ 県立施設 5 館（美術館、琵琶湖文化館、安土城考古博物館、琵琶湖博物館、陶芸の森）
- ◆ 滋賀県博物館協議会 保坂ディレクターが会長に就任、当館が事務局を担う（R6～）

8-1 教育機関・企業等・国の機関・独立行政法人・市町等との連携強化

□ 県庁との連携

- ◆ 県・教育委員会 県高等学校等教育研究会国語教育部会秋季研究大会（県内高等学校の国語科教員が参加） 11/28
学校からの美術館利用についての概要説明および質疑応答、コレクション展鑑賞など
- ◆ 県・教育委員会 県高等学校等教育研究会美術・工芸部会（県内高等学校の美術科教員が参加） 1/30
企画展「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」担当学芸員による解説、
美術館の活用方法等について当館職員との意見交換など
- ◆ 県・文化芸術振興課 「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト 展示やワークショップによる成果発表
- ◆ 県・文化芸術振興課 「美の糸ロートにどぼん！」の開催
- ◆ 県・文化芸術振興課 「滋賀キッズミュージアムネットワーク協定の締結 4/8
※県立美術館、佐川美術館、MIHO MUSEUM、県立陶芸の森、県立文化産業交流会館の5施設および
滋賀次世代文化芸術センターが協定の締結主体
- ◆ 県・文化芸術振興課 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）「滋賀魅力体験ウィーク～Discover Shiga, Go Lake Biwa～」
県・万博推進室 でのワークショップの実施 6/25、9/1
- ◆ 県・文化芸術振興課 こほくキッズミュージアムでのワークショップの実施 10/11
- ◆ 国スポ・障スポ大会局 当館ラボにて、「全国スポーツ写真コンクール2025／全国スポーツ俳句コンクール2025」の展示 9/27～10/10
※ 令和7(2025)年度に本県で開催した「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」の文化プログラムとして開催

9 美術館魅力向上事業

9-1 ナイトミュージアム

美術館・博物館相互の連携やネットワークの形成により、美術館・博物館の夜間活用を、日本のナイトタイムエコノミーの中核コンテンツとして確立し、夜の時間帯における新たな価値創出や文化と経済の好循環の実現を図るため、令和6(2024)年6月に「ナイトミュージアムKANSAI 実行委員会」を設立した。令和7(2025)年7月には、「ナイトミュージアムKANSAI」を軸としつつ、夜間以外の時間帯も含めて、新たなビジネスモデルや地域活性化に貢献するモデルの確立などを目指し、「BIZ + MUSEUM KANSAI 実行委員会」（京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館、神戸市博物館、滋賀県立美術館、公益社団法人関西経済連合会、関西電力株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社 JTB で構成）に改組した。当館では、令和7(2025)年度に、「ナイトミュージアムKANSAI」の一環として以下の事業を実施した。なお、本事業は、文化庁のInnovate MUSEUM 事業の補助金（補助率 2 / 3）を活用している。



プログラム名等	実施日時	内容	実績（参加人数等）
みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！ 対象：一般	8/23（土） 9:30～20:00	開館時間を20時まで延長し、各種ワークショップ、ギャラリーツアー（子ども向け、高齢者向け、視覚障害者向け）、対話鑑賞、ライブステージ、企業提供の体験プログラム、美術館前庭の屋台（飲食等）、江州音頭などのプログラムを実施、託児サービスを実施 夜間の時間帯に、美術館と瀬田駅を結ぶ直行バス運行	— （日中のイベントと一体的なため、17時以降の来場者を切り分けることが困難） ※1日の総来場者は3,276名
ビジネスパーソン向け 夜の鑑賞プログラム 定員：各日20名（事前申込制） 参加料：2,500円（交流会は別途1,500円） ※ご参加いただいた皆様には滋賀県美メンバーズカードを1枚お渡し ※プログラム終了後、瀬田駅までの直行バスを運行	10/17（金） 18:00～20:15	対話鑑賞、企画展「おさんぽ展」担当学芸員の解説付きツアー、バックヤードツアーを組み合わせたプログラム実施 ※交流会は申込人数が少なかったため中止	申込者3名／参加者3名 県内2名、県外1名 40代～50代
	10/31（金） 16:00～18:15	保坂ディレクターのレクチャー「ビジネスとアートの好循環」、対話鑑賞、交流会（参加費1,500円）を組み合わせたプログラム実施	申込者13名／参加者10名 県内7名、県外3名 30代～60代
	11/7（金） 18:00～20:15		申込者20名／参加者19名 県内15名、県外4名 20代～60代

9-2「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」①

□ 趣旨

当館では、2024年 3 月に「滋賀県立美術館魅力向上ビジョン」を策定し、子どもたちがアートに出会い親しむ機会の充実や誰もがウェルビーイングを高めることのできる環境づくりなどを掲げました。

その実現に向けた取組の一環として、美術館への来館のハードルを下げ、年齢や障害の有無などにかかわらず、多くの方々が一緒に楽しめるイベント「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」を開催しました。

タイトルの「みんなでつくる！みんなで楽しむ！」には、美術館だけではなく、地域の企業や団体、施設、個人の皆さまと一緒に夏祭りをつくりあげ、美術館をもっと身近に感じてもらえるようになりたい、という思いを込めています。

□ 開催概要

日時：2025年 8 月23日（土） 9 時30分～20時
（通常17時閉館のところ、20時まで開館時間を延長）

主催：滋賀県立美術館

企画：特定非営利活動法人BRAH＝art.

運営：株式会社ホモ・サピエンス

協賛：月の輪自動車教習所、株式会社全国社宅管理サポート、
京都信用金庫、Honda Cars 滋賀東、
株式会社フジヤクリーニング、株式会社ミューズ、
キンキダンボール株式会社、日本絨氈株式会社

協力：一般社団法人イシダ三方良しの会、瀬田東文化振興会、
日本生命保険相互会社

□ 実績

来館者数：3,276人（2021年のリニューアルオープン以降最多）

常設展観覧者数：517人
（うち障害者・介助者75人、うち中学生以下81人）

企画展観覧者数：909人
（うち障害者・介助者91人、うち中学生以下338人）

各プログラムの参加者数：右表のとおり

□ アンケート結果（回答者数：122人）

県内：約90％、県外：約10％（京都府、大阪府など）

全体的な満足度について、「とても満足」が約85％

美術館への親しみを感じたかについて、「とても思う」が約82％

プログラム名等	大人	中学生以下	合計
ザ・キャビンカンパニーによる絵本の読み語り（11:45～12:30）	250人	200人	450人
ザ・キャビンカンパニーによる絵本の読み語り（17:00～17:45）	180人	140人	320人
びわ湖ホール声楽アンサンブル「うたって・きいて・たのしんで！」（12:45～13:30）	60人	40人	100人
びわ湖ホール声楽アンサンブル「うたって・きいて・たのしんで！」（16:00～16:45）	40人	30人	70人
音楽工房toa-Toa（15:00～15:45）	80人	65人	145人
おどってみよう！フィナーレは江州音頭！江州音頭（18:00～19:30）	30人	20人	50人
ザ・キャビンカンパニー特製おめんづくり（9:30～20:00）	—	546人	546人
館内ぐるっと！ワードハンター（9:30～20:00）	—	309人	309人
学芸員をさがせ！（9:30～20:00）	30人	120人	150人
みんなの感想をシェアしよう！（9:30～20:00）	—	—	—
未来の美術館を描いてみよう！（9:30～17:00）	—	—	—
子ども向けギャラリートัวร์（展示室 1）（9:45～10:15）	14人	13人	27人
子ども向けギャラリートัวร์（展示室 2）（13:30～14:00）	8人	7人	15人
子ども向けギャラリートัวร์（展示室 3）（17:45～18:30）	17人	18人	35人
近江の昔話（10:15～10:45）	22人	14人	36人
近江の昔話（13:30～14:00）	13人	9人	22人
近江の怪談（10:45～11:30）	16人	7人	23人
近江の怪談（14:00～14:45）	12人	7人	19人
対話鑑賞（11:00～11:30）	3人	1人	4人
対話鑑賞（13:00～13:30）	3人	0人	3人
高齢者向けバリアフリーツアー（14:30～15:30）	2人	0人	2人
視覚障害者向けバリアフリーツアー（15:45～16:15）	2人	0人	2人
夜の美術館探検	35人	30人	65人
美術館屋台村（16:00～20:00）	—	—	—
企業ブース（9:30～20:00）	—	—	—
未来に向けた取組展（9:30～20:00）	—	—	—
託児サービス（9:30～11:30、11:45～13:45、14:00～16:00）	—	5人	5人
みゅーじあむ★でびゅー（9:30～20:00） （美術館に初めて来られた方（自己申告）に認定証をプレゼント）	222人		222人
臨時バス（瀬田駅16:30、17:30、18:50発）	35人		35人
臨時バス（県立美術館17:00、18:20、19:20、20:15発）	46人		46人

9-2「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り！」②

(1) 子どもが楽しめる

夏祭り当日に開催していた、二人組の絵本作家ザ・キャビンカンパニーの企画展に関連付けた、作家ご本人による絵本の読み語りや、担当学芸員による子ども向けの展示解説ツアーなど、子どもたちや親子連れが楽しめるプログラムを多数用意しました。

その結果、企画展「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂参加〉」をご観覧いただいた方のうち約37%が中学生以下で、子どもたちの楽しそうな表情がたくさんみられた1日になりました。



ザ・キャビンカンパニーによる絵本の読み読りの様子

(6) 夜も楽しめる

文化庁の支援（令和7年度文化芸術振興費補助金（Innovate MUSE））を受けて20時まで特別に延長開館しました。屋台の出店や祭りのフィナーレを飾る江州音頭（滋賀県江州音頭協会・DJ BUBBLE-B）なども用意して、普段とは違う夜の美術館をお楽しみいただきました。



江州音頭の様子



(5) 展示も楽しめる

常設展「没後50年 三橋節子と滋賀の風景」を開催している展示室1内で、講談師の旭堂南風さんや近江怪談クラブの皆さまに滋賀県にちなんだ昔話や怪談を上演いただくなど、夏祭りや開催中の展示の趣旨を事前に皆さまと共有し、ご公演やワークショップと展示を接続して楽しめるプログラムを一緒につくりました。

このほか、開館中の毎週土日に実施している対話鑑賞などもあわせ、美術館の展示をより一層お楽しみいただきました。

(2) 誰もが一緒に楽しめる

地域の障がい児支援施設や児童クラブ、こども園で事前にワークショップを行い、その成果を当日の会場で展示したり、高齢者や視覚障害者向けの展示解説ツアー（バリアフリーツアー）を開催したりしました。

その結果、展覧会（常設展および企画展）をご観覧いただいた方のうち約12%が障害者およびその介助者の方でした。ベビーカーも普段より多く、年齢の違いや障害の有無などにかかわらず、誰もが一緒に楽しめる夏祭りになりました。

(3) みんなでつくる

地元の6社の企業様（月の輪自動車教習所様、株式会社全国社宅管理サポート様、京都信用金庫様、Honda Cars 滋賀東様、株式会社フジヤクリーニング様、株式会社ミューズ様）からご協賛をいただいたお陰で、大学生以下は展覧会（常設展および企画展）を無料でご覧いただけました。

また、4社の企業様（月の輪自動車教習所様、Honda Cars 滋賀東様、一般社団法人インダ三方良しの会様、日本生命保険相互会社様）にブースをご出展いただき、夏祭りに合わせて、子どもたちが楽しめる様々な体験プログラムを実施いただきました。

このほか、ワークショップを協働で実施したり、ライブステージへご出演いただいたり、各種資材をご提供いただいたりなど、多くの皆さまのご協力で充実したイベントになりました。

(4) もっと身近に

館内で学芸員を見つけて声をかけると、個々の担当（専門分野）と必殺技、似顔絵が書かれたオリジナルトレカがもらえる「学芸員をさがせ！」や、普段入ることができない美術館のバックヤードを探検するツアーなど、美術館を身近に感じていただける仕掛けを用意しました。



「学芸員をさがせ！」の様子

9-3 整備基本計画策定に向けた検討

令和6(2024)年度から2か年度かけて滋賀県立美術館整備基本計画の策定に向けて検討を進めている。

令和7(2025)年度は、技術的・法的な制約やコスト分析を踏まえた検討が必要であったことから、同基本計画策定支援業務委託を公募型プロポーザルにより公告し、事業者選定委員会による審査の結果、複数者の中から株式会社日建設計 大阪オフィスを選定し、専門的な見地からも詳細の検討を進めてきた。

検討の結果を踏まえ、令和7(2025)年11月議会文スポ・土木・警察常任委員会にて同基本計画（素案）を報告した。その後、素案について広く意見募集等を行いながら更なる検討を進め、令和8(2026)年2月議会文スポ・土木・警察常任委員会での同基本計画（案）の報告、その後の策定に向けて取組を進めている。

9-4「教えて！もっと行きたい美術館」 ～県内の小中学生が主役のワークショップを開催～ (令和7(2025)年8月9日（土） 当館ワークショップ他で開催)

令和6(2024)年度にとりまとめた滋賀県立美術館整備基本計画骨子では、整備の方向性として「子どもたちがアートに親しむことのできる環境整備」や「公園と一体となった整備」などを掲げた。

これらをきちんと同基本計画で具体化させていくにあたり、滋賀県内在住・在学の小中高生から「ミュージアム・クリエイター」としての意見を募り、小中高生それぞれの視点から「もっと行きたい美術館」について考えていただくためのワークショップを行った。

当日は小学生10名、中学生13名、運営補助も兼ねて大学生4名に参加いただいた。コーディネーターによる全体発問「みんなが思う美術館ってどんなイメージ？」を経て、学芸員による美術館の案内や見学を実施し、その後「美術館でこんな風にすごせたらと思うことは？」や「公園の中の美術館としてもっと魅力をアップさせるには？」などの意見出しワークショップを実施した。

「宿題ができる場所がほしい」、「ごはんを食べながら、泳ぎながら、あるいはコタツに入りながら作品を見たい」、「すべり台で、2階から1階へ、また美術館から公園へすべって移動したい」、「公園と美術館をジップラインでつなぐ」、「魅力的な外観や大きなオブジェが必要」、「壁を自分で動かして作品をみたい」、「一日スタッフ体験をしたい」などの意見が交わされた。



撮影 成田 舞 (Neki inc.)



撮影 成田 舞 (Neki inc.)

9-5 公園内の看板設置

公園から美術館までのアクセスがわかりづらい点や、美術館の近くに来てもその存在や何の展示をしているのか認知できないといった課題に対応するため、公園内および敷地内に案内表示看板の設置を予定している。

令和7(2025)年度は、公園の西駐車場を中心に4か所の案内表示看板の設置、近代美術館の名称が残る既設看板5か所の更新（修正）を予定している。

9-6 野外彫刻作品の一時撤去

コールダーの庭に設置しているアレキサンダー・コールダー《フラミンゴ》について、コールダー財団の指摘、要請により現在の屋外設置を取りやめ、将来的な室内展示に向けて、今年度中に一時撤去し、室内保管することを計画している。作業日は令和8(2026)年3月9日（月）。現展示場所にて分解、館内を移動したのち、木箱に梱包の上トラックヤードで保管の予定。

【令和7年度 購入、寄贈、寄託 作品リスト】

資料 2

購入：1件1点 寄贈：46件58点 寄託：0件0点 合計47件59点

購入										単位：cm	
No.	ジャンル	作者	作品名	制作年	材質技法	員数	サイズ (H)	サイズ (W)	サイズ (D)	購入先	
1	現代美術	ローレンス・ウィナー	HERE & NOW NOW & THEN	1996/2024年	言語と参照されている素材 (Language + the materials referred to)	1	可変			TARO NASU	

寄贈

No.	ジャンル	作者	作品名	制作年	材質技法	員数	サイズ (H)	サイズ (W)	サイズ (D)	寄贈者
1	日本画・郷土美術	大田左卿	陶然自楽	2002年	紙本墨書	1	52.0	217.0		大田京子
2	日本画・郷土美術	大田左卿	無念無想	2013年	紙本墨書	1	231.0	51.0		大田京子
3	日本画・郷土美術	大田左卿	ふるさと	2015年	紙本墨書	1	131.0	347.2		大田京子
4	日本画・郷土美術	岸竹堂	農夫繫牛図	1897年	絹本墨画	1	129.0	51.1		中神源一
5	日本画・郷土美術	内藤和子	花	1987年	紙本著色	1	52.0	40.2		本田路晴
6	日本画・郷土美術	中原甕塘	溪流図	1927年	油彩・カンヴァス	1	70.0	49.0		山元寛昭
7	日本画・郷土美術	中原甕塘	山岳図	1929年	油彩・カンヴァス	1	116.5	72.5		山元寛昭
8	日本画・郷土美術	野口謙蔵	野鳥図	制作年不詳	絹本淡彩	1	20.5	17.9		中神源一
9	日本画・郷土美術	野口謙蔵 米田雄郎	蓮図	制作年不詳	紙本墨画	1	135.6	33.1		中神源一
10	日本画・郷土美術	野口謙蔵 前田夕暮 米田雄郎 ほか	歌帖「あをくさ」	1930年代	紙本墨書、紙本墨画淡彩	1	(本体) 24.0 (画面) 23.9	18.0 35.8	3.0	星野桂三
11	日本画・郷土美術	長谷川玉純	牛羊図	制作年不詳	紙本墨画淡彩	1	136.7	29.0		中神源一
12	日本画・郷土美術	長谷川玉峰	蓬莱山図	1841年	絹本墨画淡彩	1	115.8	49.0		中神源一
13	日本画・郷土美術	疋田春湖 杉浦重剛	富士山図	制作年不詳	絹本著色	1	126.5	41.9		中神源一
14	日本画・郷土美術	山元春挙	雪之図 雨之図	1902-1906年頃	絹本墨画淡彩	2	(雪之図) 130.8 (雨之図) 131.0	41.0 41.0		高田英夫
15	日本画・郷土美術	山元春挙	艶姿図	1932年	紙本墨画	1	26.2	23.3		中神源一
16	日本画・郷土美術	山元春挙	妓女図	1926-1936年頃	紙本墨画	1	97.4	29.6		中神源一
17	日本画・郷土美術	山元春挙	緑竹図	制作年不詳	絹本著色	1	103.2	25.0		中神源一
18	日本画・郷土美術	山元春挙	竹図広蓋	制作年不詳	板地著色	1	29.5	39.5	4.7	中神源一
19	日本画・郷土美術	渡辺公観	十二か月花鳥山水人物図画帖	1912-1926年頃	紙本著色、紙本墨画淡彩、紙本墨画	1	(本体) 33.2 (画面) 各30.1	24.2 45.1-45.2	3.5	原道生
20	日本画・郷土美術	渡辺公観	書簡	1913年 1916年 1916年 1926年 1931年 制作年不詳	墨書・紙 墨書・紙 墨書・紙 墨書・紙 (手紙) 印刷・紙 (封筒) 墨書・紙 墨書・紙	1 1 1 1 2 3	21.5 14.0 20.5 14.0 (手紙) 19.6 (封筒) 20.5 (手紙) 各22.8	8.5 9.0 8.5 9.0 58.7 8.5 12.8		原道生
21	現代美術	石川順恵	Impermanence 氷面鏡	2023年	アクリル、砂・カンヴァス	1	191.5	108.3	4.2	牧寛之
22	現代美術	石川順恵	Impermanence 春禽 2	2023年	アクリル、砂・カンヴァス	1	195.2	158.0	4.2	牧寛之
23	現代美術	大久保紗也	They	2020年	油彩、アクリル・プラスチック タン	1	182.0	150.0		松野広行
24	現代美術	岡崎和郎	HISASHI	1983年	ブロンズ	1	3.7	32.5	7.0	岡崎厚子
25	現代美術	鮫島ゆい	Ritual Room (Pretend to Be Happy)	2025年	油彩、アクリル・カンヴァス、パネ ル	3	229.0	380.0	4.0	牧寛之
26	現代美術	土取郁香	I and You (とばりがおりて)	2021年	油彩、スプレー・カンヴァス	1	162.0	130.0		松野広行
27	現代美術	松川朋奈	From the outside, it probably looked like nothing was wrong.	2026年	油彩・カンヴァス	2	各80.0	53.0		牧寛之
28	現代美術	毛利悠子	Piano Solo: Makino	2025年	シングルチャンネル・ビデオ、カ ラー、サウンド、自動演奏ピアノ (アップライトピアノ)、オーディ オ・インターフェイス、マイク、コ ンピューター、ケーブル	1	サイズ可変 13分11秒			牧寛之
29	アール・ブリュット	鎌江一美	まさとさん	2009年	陶	1	34.0	24.5	16.5	平安伸銅工業株式 会社
30	アール・ブリュット	鎌江一美	ヨーロッパへ一緒に行く私とまさとさん	2023年	陶	1	22.5	36.0	26.5	やまなみ工房
31	アール・ブリュット	篠原尚央	無題	2014年	水彩・紙	1	53.9	38.8		平安伸銅工業株式 会社
32	アール・ブリュット	篠原尚央	無題	2014年	水彩・紙	1	53.8	38.8		平安伸銅工業株式 会社
33	アール・ブリュット	篠原尚央	無題	2014年	水彩・紙	1	53.8	38.8		平安伸銅工業株式 会社
34	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2017年	水彩・紙	1	54.0	38.0		平安伸銅工業株式 会社
35	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2017年	水彩・紙	1	54.0	38.1		平安伸銅工業株式 会社
36	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2017年頃	水彩・紙	1	54.0	38.3		平安伸銅工業株式 会社
37	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2017年頃	水彩・紙	1	54.1	38.1		平安伸銅工業株式 会社
38	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2019年	水彩・紙	1	54.1	38.1		平安伸銅工業株式 会社
39	アール・ブリュット	篠原尚央	カキカコ	2020年	水彩・紙	1	54.0	38.1		平安伸銅工業株式 会社
40	アール・ブリュット	篠原尚央	ピンカキカコ	2020年	水彩・紙	1	54.2	38.2		作家寄贈
41	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	22.5	6.2	5.8	平安伸銅工業株式 会社
42	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	32.0	8.0	7.7	平安伸銅工業株式 会社
43	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	32.8	9.0	8.3	やまなみ工房
44	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	40.0	7.5	7.5	やまなみ工房
45	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	41.8	11.0	10.0	やまなみ工房
46	アール・ブリュット	吉川秀昭	目・目・鼻・口	2018-2023年頃	陶	1	49.0	10.0	8.5	やまなみ工房

滋賀県立美術館整備基本計画 検討状況

滋賀県立美術館協議会
令和 8 (2026) 年 3 月 9 日

1 直近の動きと今後の予定

直近の動き

令和 7 (2025) 年 2 月	第55回 滋賀県立美術館協議会
3 月	県民対象のワークショップ
3 月	整備基本計画（骨子）とりまとめ
5 月	整備計画策定支援の委託（㈱日建設計大阪オフィス）
8 月	小中学生対象のワークショップ
9 月	第56回 滋賀県立美術館協議会
12月	県議会 常任委員会に整備基本計画素案の報告
12月	整備基本計画素案の意見募集

今後の予定

令和 8 (2026) 年 3 月 9日	第57回 滋賀県立美術館協議会
3 月10日	県議会 常任委員会に計画案の報告、計画策定
4 月以降	整備に着手する予定 (令和 8 (2026)年度は設計者選定を予定)

2 整備基本計画素案の意見募集

2-1 実施概要

- 令和 7 (2025)年12月23日から令和 8 (2026)年 1 月16日まで
- 県民、市町、びわこ文化公園都市未来創造会議構成員、美術館協議会委員に意見募集
- 周知媒体：滋賀県・美術館HP、SNS、瀬田駅構内、美術館ラボ
新聞記事でも取り上げていただいた（1社）



美術館ラボにて意見募集コーナーを設置

2-2 実施結果

- 意見募集の結果、33人・団体から81件の意見（同内容の意見は集約）が寄せられた。

項 目		件 数
建築関連（ギャラリー、展示室、収蔵庫、居心地よさ等）		14件
運営関連	キッズアートセンター	9件
	展示など学芸業務	7件
	連携、広報発信	12件
公園・アクセス関連（公園の活性化、アクセス改善等）		17件
その他（全般）		4件
考え方を示した意見 合計		63件
施策を実施するうえで参考とさせていただく意見		18件
合 計		81件

**滋賀県立美術館整備基本計画
素案への意見募集 -2026.1.16**
みなさんからの意見をお待ちしています

滋賀県立美術館（以下、県立美術館）では、1984年の開館以来、継続して展示や研究、保存、教育交流事業等に積極的に取り組んできました。

しかし、開館後40年が経過し建物や設備は老朽化が進んでおり、抜本的な改修を要する時期に入っています。加えて、県立美術館が身近な施設でない方を抱えることも浮き彫りになっていきます。

このような現状を受け止め、「県立美術館に何ができるのか」といった問いを自らに投げかけ、県立美術館の役割を見つめ直しながら、近未来、多様な鑑賞者が楽しめる視点を取り入れた展示に加え、対話鑑賞を活用した社会的処方などウォール・ピーニングに資する取組などを意図的に進めてきました。

こうした検討や試行も踏まえ、施設機能の継続させるための抜本的な改修とともに、より多くの方に利用していただける存在になるために県立美術館の増築やびわこ文化公園と一体となった整備などを進めたいと考えています。

このたびは、**整備の基本的な方向性をまとめた基本計画（素案）**をとりまとめたので、**これに対する皆様からのご意見等を募集**しますので、ご意見をお寄せください。よろしくお願いします。

1 意見募集期間
2025年1月16日（金）まで

2 閲覧方法
・ 各の二次元コードをスマートフォンで読み取ることで、美術館ホームページにリンクします
・ 県立美術館ラビにて紙媒体を展示しています

3 記載いただく内容
①氏名 ②ご住所（市町名まで） ③滋賀県立美術館整備基本計画素案へのご意見

4 意見募集結果の利用
・ お寄せいただいたご意見は、滋賀県立美術館整備基本計画策定の参考といたします。
・ 個々のご意見やご提案に直接回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
・ 個人情報保護法に基づき、ご意見の公開は目的以外に利用したり、第三者に提供したりすることはありません。

5 問合せ先
文化スポーツ部文化芸術振興課美術の魅力を発信課
電話：0775(43)2111（県立美術館開館時間中） FAX：0775(43)2170
E-mail：sc0003@pref.shiga.lg.jp

(別紙)

美術館整備基本計画(素案)に対して提出された意見等とそれらに対する考え方

建築関連	番号	意見等(概要)	意見等に関する考え方
	1	・県民ギャラリーの使い勝手の悪さが指摘されており、単に場所を移設し拡大するだけでは、真に需要に応えられるか疑問。来館者増につながるよう、スペースの大きさや機能について利用者のニーズをきちんとヒアリングし、今後の具体的な方針を示すべき。	ギャラリーの整備内容の検討にあたっては、利用者や将来的に利用の可能性があると思われる県下文化団体にアンケート調査を行いました。その結果および県財政に与える影響等も踏まえながら計画しています。今後においても、利用者等からご意見をいただきながら、詳細を設計していきたいと考えています。
	2	・県民ギャラリーは美術館と地続きで、滋賀県展や学生の卒展に加え、若手作家の作品販売や個展・グループ展にも対応できるスペースが望ましい	県民ギャラリーは敷地内で移設し、可動壁や照明設備などの展示環境を改善します。今後の設計において、展示物量に応じて区分しやすい諸室の仕様や観覧車動線を確保するなど具体化させるほか、ソフト面の改善も検討を進めます。
	3	・収蔵展示は管理が大変であり、収蔵作品は増え続けるにもかかわらず収蔵庫の増床予定がないのは不自然である。県立他館との収蔵庫共有化のような方針があるのか。	開かれた収蔵庫としての展示室(オープンストレージ)の整備および常設展示室等の増床により、現在、収蔵庫内にある作品がそれらの展示室に出ることから、当面は収蔵庫の収蔵余力が確保できます。
	4	・将来に備え、本格的に美術作品を保護できる収蔵庫の増設・新設について再検討を要望。	
	5	オープンストレージは、盗難・破損リスク・セキュリティ対策への配慮が必要。また、美術品のみが対象で、県立美術館が保有する貴重な美術全集や図録などの図書・資料が活かされていない。子どもたちの学習機会を充実させるため、図書室・収蔵室の確保、増え続ける蔵書の整備計画確立、誰もが利用できる図書室、資料請求・閲覧・貸出システムの構築が必要である。	開かれた収蔵庫としての展示室(オープンストレージ)に関わらず、県民共有の財産であるコレクションや他館からお借りした作品を配置する諸室については、特に必要な什器や設備の整備を行い、万全なセキュリティ対策を施します。今回、限られた予算の中で整備規模の効率化を図ったため、図書資料室単体を整備することは困難ですが、共用部に図書コーナーを設けるなど設計において検討します。
	6	既存展示室の外光・天井高問題を解消し、効果的な鑑賞環境を整備すべき。理想として、JR駅近に現代美術専門の第二美術館を新設し、文化公園はキッズアート等に特化する役割分担を提案する。	増築棟に計画する一部の展示室については、外光を取り入れ、十分な天井高を確保するなど、展示作品に応じて、また、来館者にとって、最適な展示・鑑賞環境がつくられるよう整備を進めます。整備場所については、文化と福祉、大学、スポーツなど他分野との連携を進めるため現在の場所での整備が望ましいと考えています。
	7	バリアフリー、特に重度障害者の利用も計画に盛り込んでほしい。介助が必要な中学生以上の利用者向けに、多目的トイレへの折り畳み式ベッドの設置を強く求める。	「誰もが利用できるユニバーサルミュージアム」には、重度障害者の方も利用いただきやすい施設とすることを含んでいます。現在も当館ファミリートイレには大人用の折り畳み式別ベットを設置しています、整備後においても引き続き設置していきます。
	8	建物の増改築では、使いやすく長寿命で、キャットウォーク設置などメンテナンスを重視した構造を希望する。	経済性・環境性・メンテナンス性に優れた方式に更新等することを基本に今後の設計業務を進めます。
	9	誰にとっても居心地が良い空間の充実のため、映像や作品を見ながら、ソファやマットで寝転びながら見たり休んだり出来る空間があると良い。	作品をみながら、くつろいでいただける空間の実現に向けて、椅子の配置等も含め検討を進めます。
	10	キッズや子育て世代への配慮は良いがシニア・身障者向けの休憩スペースや椅子が不足している。ゆっくり休める環境の再整備を望む。	誰にとっても居心地が良い空間の充実も掲げており、館内外でゆっくりくつろいでいただける空間や必要な什器の整備も行います。
	11	館内、公園内のイスやベンチをもっと座りやすいものに改善してほしい。	
	12	地元で優れた芸術施設があるのは県民の誇りになる。思い切った発想が必要。中途半端なものを作ってほしくない。	新しい滋賀県立美術館が、県民の誇りとなる魅力的な施設となるよう、来年度以降の設計者選定、設計業務等を進めます。
	13	増加築により建築自体も鑑賞対象となるようなものにすべき。例えば若手建築家とその名を広く世の中に知られるきっかけとなるような建物とすることにこだわってほしい。	
	14	公園の景観に融合した美しいデザインを求める。また、特に池の周りの景観利用し、カフェや休憩スペースを設置してほしい。	具体的には今後の設計業務の中で詳細を検討しますが、県民の誇り・県民の象徴となるような魅力ある建物となるよう進めます。また、美術館のエントランスを池側にも設ける計画としており、日本庭園の景観を活かした休憩スペース等についても実現していきたいと考えています。

番号	意見等（概要）	意見等に関する考え方
キッズアートセンター	15 美術館が子どもにとって芸術・表現に触れる創造と交流の場となることを強く望む。	美術館で多彩な表現に触れていただき、子どもたちそれぞれの創造性が生まれ・育まれることや、作品を介して作家や鑑賞者同士と交流し、自分とは異なる考えや価値観があることに気づくことができる環境やプログラムが充実するよう、引き続き取り組みます。
	16 キッズアートセンターが魅力的なものとなるよう考えられる担当者を明確にして検討を進められたい。	キッズアートセンターをより魅力的なものにするためには、コンセプトづくり、スタッフの育成、イベント等を通じた試行等が重要となります。それぞれの進捗に応じて必要な体制を整えるほか、海外の美術館と連携しつつ、キッズアートセンターのオープン当初から洗練されたプログラムを皆様に提供できるよう準備していく予定です。
	17 滋賀県内のすべての小学3年生を対象に、キッズアートセンター（新滋賀県立美術館）への教育プログラムを実施することを提案する。経済格差により文化的支出が制限される課題に対応し、学校教育として全児童に美術館体験を保障する。これにより美術館の利用者増加、児童のアート体験充実、クリエイティブ人材育成が期待される。	学校との連携による団体観覧を拡充していきたいと考えており、将来的には滋賀県の小学生なら一度は滋賀県立美術館に来たことがあるような状態を目指して、県や市町の教育委員会等とも連携しながら、必要な仕組み等を検討します。
	18 学校との連携で興味を持った子どもが、リピートできるための取り組みを求める。格差社会といわれている時代において体験格差が生じてしまう。	
	19 「子ども」に、障害のある子ども、不登校やひきこもりの子ども、美術館にまで連れて行けない家庭の子どもなども含まれるよう明記されたい。	「子ども」のなかの多様性も含めて、「誰もが」利用しやすい環境を目指して整備を進めることを基本理念に計画をつくっています。また、自力で美術館まで来れない子どもを念頭に、学校との連携による団体観覧や出張授業等の取り組みについて積極的に進めていきます。
	20 不登校児童生徒もアートに関心を持つ機会を提供できるよう例えばオンラインの取組も検討されたい	現在、フリースクールに通う子どもたちを美術館にお招きし、対話型鑑賞などを通じてアートに触れていただく試行を進めています。これらの成果も分析しながら、今後の展開につなげます。
	21 連携先として、子ども食堂やフリースクールなども考えてほしい。	
	22 「キッズ」に重点が置かれる一方で、高齢者・シニア層への配慮や視点が不足しているため、その検討を求める。	他館にはない新たな特徴としてキッズアートセンターの誕生も整備のポイントとして打ち出していますが、それだけではなく、県民共有の財産であるコレクションの有効活用のための展示室の増設や目玉となる作品の設置も計画しており、中高年齢層の方にとっても今まで以上に楽しんでいただける美術館となるよう計画しています。
展示など学芸業務	23 キッズ向け施策は重要だが、中高年齢層への配慮も不可欠だ。平日の来館者は高齢者が多いことを鑑み、特定の作家の常設展示を充実させるなど、多様な層が「必ず観たい作品がある」と感じられる展示構成を検討してほしい。	
	24 常設展の充実とともに、企画展についてもスケールアップした展示を期待する。	企画展示室自体について面積増は計画していませんが、特別な機会においては、企画展示室だけでなく増床して大きくった常設展示室の一部やその他館内外のスペースを使うなど、スケールアップした企画展示の実現について検討します。
	25 キュレーターやアーティストが創造性を存分に発揮できる自由な場とし、基本計画で言及が薄い「表現・創造の場」としての機能を強化すべき。とがった企画も許容し、国内外から人々を惹きつける美術館を目指してほしい。	当館では、美術館で個展経験のない若手作家の個展シリーズを今年度から開始しており（今年度：笹岡由梨子）、当館学芸員も共同しながら、ともに成長していこうとしています。この取組みは、再開館後もできる限り継続し、他館にはない当館独自の表現・創造の場としていきます。
	26 地方美術館は滋賀県在住・出身作家の作品収集・保存に特化すべき。美術館と図書館を併設することで鑑賞機会が増え、生き残り戦略となる。大規模都市美術館に国内外の著名作家作品は任せ、地方は地元作家に集中する。既存空きスペースに図書館の開架棚を配置し、「アール・ブリュット」作品を展示すれば、人件費削減と効率的な運営が実現する。	地元ゆかりの美術作品をきちんと収集・保存し、皆様にご紹介もしながら後世にお伝えしていくことは、地方美術館が果たすべき重要な役割のひとつであります。そのため、今回の計画では滋賀ゆかりの作品を今後も収蔵し続けるとともに、いつでも数多くの作品を鑑賞できるようにするため開かれた収蔵庫としての展示室（オープンストレージ）を計画しています。

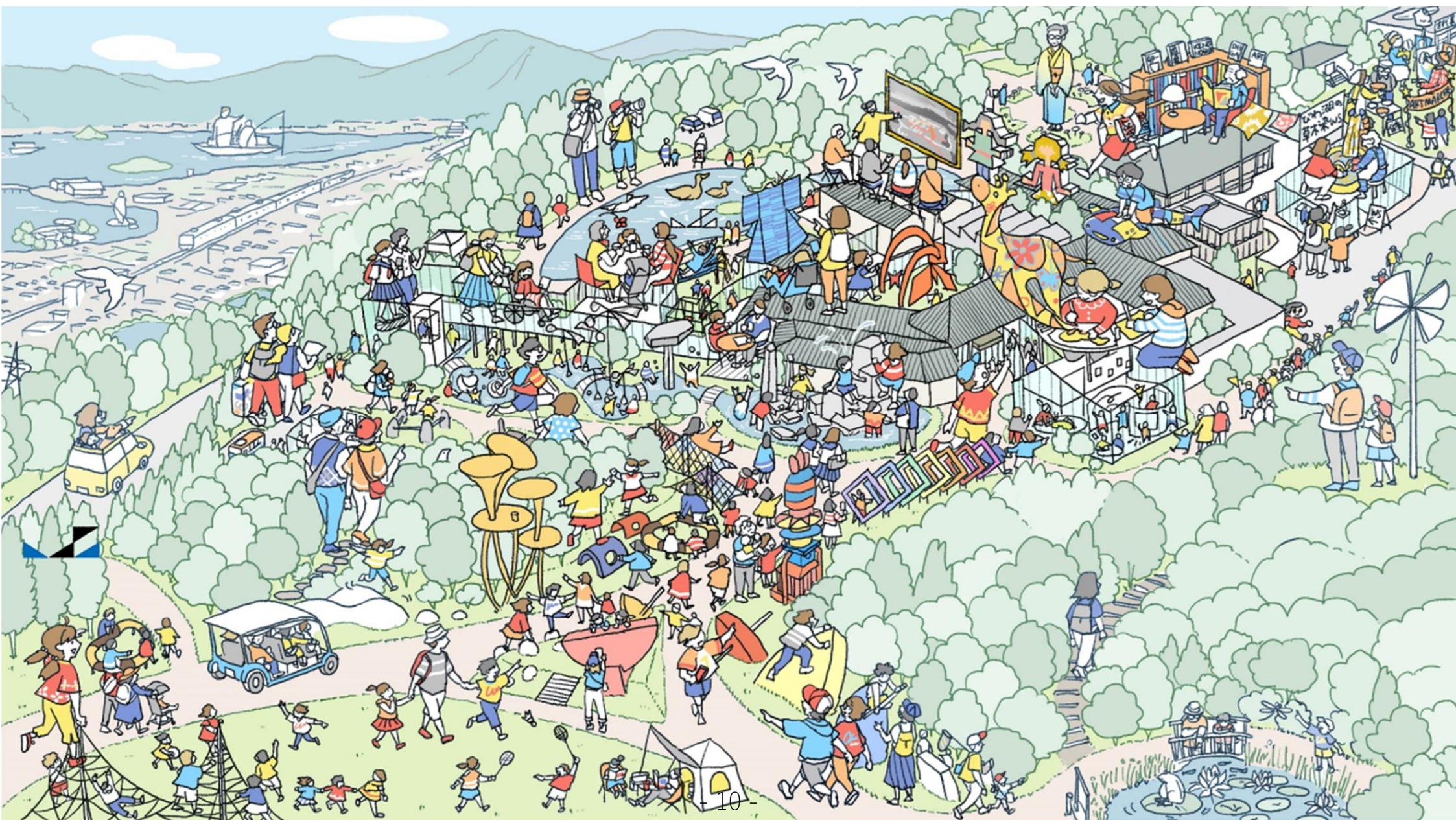
展示など学芸業務	番号	意見等（概要）	意見等に関する考え方
連携・広報発信	27	アール・ブリュットについて集客面での評価を考慮しないのは、学術面に逃げ込んだ独りよがりと言われても仕方ない。	当館は、アール・ブリュットを収集方針に掲げる国内唯一の公立館であり、世界でも有数のアール・ブリュット作品のコレクションを有する美術館となりました。 昨年度開催した企画展「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人」といえば、「も」を何百回と書く。」は、北海道や沖縄の美術館にも巡回しており、全国各地の方に当館のアール・ブリュット作品をご覧いただいています。 今回、アール・ブリュットのための展示室を整備することにより、滋賀が収集することになった歴史的背景を含めてしっかりとしたボリュームで常設展示をしていくことで、滋賀の文化的な歴史と強みを国内外にアピールしていくことができると考えます。
	28	滋賀は歴史的な側面では重要な地域であり貴重な美術品があるがそれらは生かさないのか。	特に常設展示室の狭隘化が大きな課題であったため、今回はコレクション展示室を拡張する計画としています。滋賀ゆかりの作家の作品などの貴重なコレクションを多くの方にみていただけるよう整備を進めます。
	29	いろんな年代の方が気軽に参加できるワークショップを進めてほしい。平日何か楽しめる居場所を求めているシニアはたくさんいる。	様々な年代の方が楽しんでいただける場所をつくれるよう今後の設計において具体的に検討します。 本整備基本計画でも、例えば、ワークショップルームの一区画は、開館時間中なら自由に出入り可能で、自分で好きに創作もできるフリースペースを設け、居心地よくサードプレイスとしても利用される空間となるよう計画しています。
	30	社会的処方の方のコンセプトは評価するが、アートへ関心がない人にとって敷居の高さが課題。現代アートの魅力をSNSで若者等に広報強化し集客を。また、小劇場設置も提案し、演劇や子供の発表の場として親子で楽しめる工夫を期待。学芸員の企画力は高く評価する。	目玉となる作品の設置や建築・公園そのものが魅力的な場所となり自然と公園として美術館に足を向けたいくなるような整備が実現できるよう今後の設計において検討します。また、整備の過程について情報発信し話題性のある取り組みとなるようにします。
	31	キッズアートセンターを核とした基本計画は魅力的で、社会的処方の導入も高く評価する。しかし、その具体的な活動内容の深化に加え、社会的処方を実効性のあるものとするには、美術以外の多様な専門職（医療、福祉、教育など）や地域との連携が極めて重要となる。この点を含め、今後の詳細化と発展に期待する。	キッズアートセンターについては、教育専門職等との連携が重要となることから、必要な体制づくりや連携先の開拓・調整を進めていきます。また、社会的処方の取組みについては、現在、福祉施設との連携をはじめているところですが、今後の展開に向けて、必要な体制づくりや連携先の開拓・調整を進めていきます。
	32	重要な視点として、様々な主体とのかかわりや、琵琶湖文化館との連携とあるが、ただ書いているだけなので、今後もっと具体化しないと計画を良く見せるだけの情報にみえる。	美術館と琵琶湖文化館の相互の来館が進むよう互いの収蔵品の活用や共通テーマによる展示など効果的な取組の検討を進めます。
	33	隣接する図書館、大学、新琵琶湖文化館など、他機関との連携に向けた具体的な取り組みと考え方を明確にするよう求める。	連携する主体の特性に応じて具体的な取組の検討を進めます。例えば、図書館とのワークショップの一体的な展開、大学との共同研究の実施などが考えられます。
	34	基本計画に地域連携の具体的な施策が不足している。近代美術館時代の「出前イベント」は県全域で子どもが美術に親しむ機会を提供していたが、県立美術館再開後は来館促進に重点が置かれ縮小された。ボランティア経験から、子どもたちが美術を通じて自らの可能性を発見する喜びを実感している。地域連携を重視するなら、出前イベントの再開・充実を制度として復活させることが不可欠である。	学校との連携による団体観覧の拡充に加えて、出張授業・イベントによる来館の促進も重要であると考えていますので、必要な体制の整備を進めます。
	35	企業との協働はもちろん、スポンサーになってくれる企業を増やすため、継続的なスポンサー開拓が必要。滋賀にある企業だけでなく、県外企業、滋賀県発祥の企業に郷里の文化を支えてもらうなど。	現在、サポーター（寄付）制度を設け、無料観覧デー・サポーターなどにより企業から支援をいただき、週末の常設展示を無料化する取組みなどを進めています。 引き続き、企業との連携を進めながら、

連携・広報発信	番号	意見等（概要）	意見等に関する考え方
連携・広報発信	36	再開館してからの運営計画についても県民に伝える必要がある。 継続的な広報や宣伝予算がなければ、ほかに目新しい施設ができた時に、動員はそちらに流れてしまいかねない。	具体的な運営計画は、今後整備を進める中で再開館までに決めていくこととなりますが、例えば、キッズインсталレーションスペースや開かれた収蔵庫としての展示室は、毎年の展示替えを想定しており、リピートしても楽しめるものとなります。このように増床した美術館では、これまで以上に多彩で充実したプログラムが展開できるようになります。そのうえで、魅力的になる（なった）美術館をより多くの方に知っていただくための整備事業を通じたブランディングも検討しており、また再開館後の広報方法についても今後詳細を検討していきます。
	37	各地の美術館は目玉観光施設となって誘客に貢献しているものがあるが、それは目指さないのか。	新しい滋賀県立美術館は、滋賀県の目玉となる施設となるものと考えています。 キッズアートセンターについては、国内美術館のなかでは、最大規模で他では体験できない施設となる予定です。また、滋賀ゆかりの作家の作品や、ロスコヤスティルなどアジアではここで見られない奇跡のコレクションに加え、新しい目玉となる常設作品を常時設置していくことも計画しています。これらにより、県内のみならず県外・国外から多くの方に来館いただけるものになると考えています。
	38	年間目標23万人の達成には、大型企画展の頻繁な開催が不可欠と感じる。	企画展示室では、引き続き、年数回は巡回展を行うことも想定しますが、大型巡回展の受け入れ等については、収入だけでなく支出も大きくなることから、収支状況も見極めながら検討します。
	39	独自性より全国巡回展の受け皿であってほしい。	
	40	4年間の休館期間中に「忘れられた美術館」とならないよう、具体的な活動内容とPR戦略の明示を求める。	休館中は美術館が外に出てアピールできる絶好の機会であると捉えており、再開館に向けた機運醸成イベントやキッズアートセンターのプログラム試行も兼ねたプレイベントなどを計画的に行い、県内全域に向けて認知度向上のための活動を行っていきます。
	41	現在の美術館の展示は、来客との接触を次に繋げる努力が不足している。告知が十分でなくギャラリートークなどの企画が広く伝わっていない。改善策として、収蔵品リストの公開や、休日レジャーの競合を想定した企画、トレカ製作やアート講座の開催、対話鑑賞の実施、カフェ機能の拡充、県内アーティスト支援、屋外展示、休館中のSNS配信など、多角的なPR施策が必要である。	滋賀県立美術館の認知度があまり高くない要因のひとつとして、常設展示室の面積が十分でない状況下においても、多くの作品をみていただくことを目的に展示替えを頻繁に行っていることから、いつ来てもみることができる作品（群）、つまり館を象徴する作品（群）を提示することが難しい状況にあることがあげられます。ゆえに広報媒体でも所蔵作品を積極的に紹介することができませんでした。 今回の整備では、常設展示室を拡張し、いつ来てもみられる作品（群）を設置・明確化していくこと、および新しい目玉となる作品を設置することにより、当館のコレクションの魅力を積極的に周知し、これまで以上に所蔵作品面でも注目される美術館となることを目指します。 また、来年度の設計者選定においては優れた建築設計者やランドスケープデザイナー等を選定し、建築やランドスケープそのものがキーコンテンツとなるよう今後の設計を進めていきます。
公園・アクセス関連	42	滋賀県立美術館の認知度向上には、SNS時代に対応したデザイン戦略が必須である。建物を明るく多様な色彩やユニークな形状にし、季節ライトアップや若年層に人気の芸術家とのコラボを実施することで「インスタ映え」する唯一の施設として印象づけられる。また、南草津から大阪への所要時間が40分という事実をSNSで発信し、「滋賀は遠い」という誤解を解く必要がある。自分自身、幼少期からの来館経験が現在の感性や思考の土台となり、その経験を非常に貴重に感じており、美術館は「琵琶湖」に並ぶ滋賀県の新たなシンボルとなり得る。	
	43	バス停・駐車場からのアクセスのしやすさを求める。入口をバス停側にすべき。	バス停や駐車場からのアクセス向上のため、エントランスの位置の改善や駐車場の新設などを予定しています。また、野外作品等を効果的に配置するなど園内の移動中も楽しんでいただける仕掛けを検討します。
	44	広大な敷地を最大限活用すべきである。子どもの興味を刺激する彫刻や遊具を敷地内に配置し、親子で楽しめる空間を創出すべきである。かつて賑わった遊具施設の再整備も含め、文化公園全体に活気を取り戻し、家族連れがワクワク感を持って来訪できる美術館となることを期待する。	
	45	美術館までの標識がわかりづらいため、もっとアートな感じで作られた案内表示が必要である。POPなアートや新しい芸術、作品を楽しみにしている。堅苦しくなく、誰もが気軽に入れる美術館にしてほしい。	公園内の案内看板については、建てられた年代、デザインが異なるものが乱立しており、わかりづらいものとなっています。そのため、今回の整備計画では、美術館と園内各所を楽しみながら移動できる工夫やアートの視点を入れた公園内の案内表示の整備を計画しています。公園を楽しく散歩しているうちに美術館に気軽に入ってもらえるような整備が実現できるよう取り組みを進めます。

公園・アクセス関連	番号	意見等（概要）	意見等に関する考え方
	46	美術館での滞在時間延長には、食事・喫茶施設の充実が不可欠。キッチンカー等一時的な対応だけでなく、自然を活かした魅力的なカフェなど、本格的な飲食環境の整備を真剣に検討すべきである。	美術館内のカフェをリニューアルしより居心地のよい場となるよう整備を進めまことに加え、テラス席やキッチンカーの出店に対応できる環境を整えます。また、公園内の回遊性を高める整備を行い、公園内や図書館の食事・喫茶施設も利用していただきやすくすることで、一帯で過ごしていただける環境を整えます。
	47	公園内の全体のリニューアルが必要と考える。例えば公園そのものに加え、美術館のキッズアートセンターに対応した県立図書館の対応も可能であれば検討いただきたい。	美術館がより多くの方に利用される存在となるためには、美術館だけでなく公園の改善についても必要不可欠であると考えており、整備の柱のひとつに公園と一体となった整備を掲げています。園路整備や野外作品の設置、案内看板の刷新等を行い、図書館ほか公園内施設への回遊性を向上させるための整備を行う予定です。
	48	左下の公園とつなげる、図書館との導線など、全体として公園内の導線を考えるプランの方が魅力が高まる。	
	49	増築計画におけるモニュメント的な屋外彫刻の扱いや、動線の大きな変化に対する懸念について説明を求める。	今後の設計内容によりますが、増築および動線計画の変更に伴い、既設の屋外彫刻作品については、必要に応じて移設することを想定しています。また、新しく野外作品も考えており、既存の屋外彫刻作品と合わせて、公園でも美術を楽しんでいただけるよう、効果的な配置場所等を今後検討します。
	50	誰もが来館できるよう、県は公共交通機関への財政支援と増便を求め、同時に環境保全のためマイカー利用は抑制すべき。	交通事業者や周辺施設などで構成するびわこ文化公園都市未来創造会議交通活性化タスクフォースでの議論に参画しており、交通活性化に向けた持続可能な施策の検討を引き続き進めます。今回の計画では誰もが利用しやすい環境を整えるため、美術館エントランスからアクセスしやすい場所に駐車場を増設する計画としていますが、公共交通機関の利用促進についても同時に取り組んでいく予定です。
	51	建物は修繕したばかりとを感じるが、駐車場から歩きにくく、夏などは危険を感じる。	令和3年の改修は、休館中の美術館を再開するにあたり、防火対策などの喫緊の老朽化対策のみ行いましたが、美術館は開館後40年が経過し不具合が頻発するなど運営に支障が生じており、施設の維持のためには抜本的な再整備が必要な状況であるため、ご理解いただけるよう、今後の設計時における情報発信等にも努めます。今回の再整備では、公園と一体となった整備を掲げており、公園内のアクセスにおける諸課題の解消も整備方針に掲げました。
	52	美術館へのアクセスの改善について、高齢化の中で運転免許返納の人が増えると、そういう人たちのアクセスも難しくなる。シャトルバス運営のスポンサーを探し、企業広告をバスラッピングするなど、再開館に向けてアクセスの改善は同時に行うべき。	美術館が独自のシャトルバスを継続的に運行させることは現実的ではありませんが、公共交通によるアクセス改善については、びわこ文化公園都市の共通課題として、びわこ文化公園都市未来創造会議交通活性化タスクフォースで、大学、交通事業者、周辺施設等との関係機関で集まって議論を進めているところです。来年度は周遊バスの実証実験等も実施することから、引き続き公共交通機関のアクセス改善策について検討を進めます。
	53	美術館へのアクセスは、土日午後のバス便不足や真夏の徒歩移動の過酷さから、公共交通機関利用が困難で自家用車頼みとなっている。JR・バスとの連携強化やシャトルバス運行など、来館者が手軽にアクセスできる手段の整備を強く望む。	
	54	駐車場について、エリア全体のキャパシティを考慮して大幅に拡大する必要がある。	来館(園)者増により、現状の駐車場の状況では週末を中心に満車となることが見込まれますので、美術館整備と合わせて、駐車台数増、管制設備の導入などの駐車場整備を進めることとします。
	55	来園者増に伴って、駐車場（特に北駐車場）については台数増加も視野においた改修が必要。	

	番号	意見等（概要）	意見等に関する考え方
公園・アクセス関連	56	老朽化対策と時代に合わせたアップデートのため、美術館の改修は県として必要な対応である。しかし、理想は美術館単体ではなく、びわこ文化公園全体のあり方を考えることです。公園内の各施設は点在し、車なしではアクセス困難で飲食店も少ない現状から、地域全体の将来を考える必要がある。美術館の新たな計画を機に、地域全体が連携して動く機運につながることを期待する。	今回の美術館整備では、公園と一体となった整備を柱の一つに掲げており、美術館単体だけでなく、公園を含めてエリア一帯の付加価値が向上するような整備を計画しています。
	57	・現状十分に活用されていない広い公園の整備にあたり、人が集まる中心的な場所にパークトイレ、ミニ植物園、アートマーケットやマルシェができる場所などを整備する必要がある。	夕照の庭や六角広場を美術館へのアプローチに組み込み、園路等を改善することで美術館へのアプローチと、図書館、埋蔵文化財センター、わんぱくはらっぱ等との一体化をより強化します。
	58	アクセスの改善は、公園内全体の交通ルールとも密接に関わるため、公園側と十分な調整を求める。	具体的な設計にあたっては、公園側とも十分協議しながら進めます。
	59	整備エリアは、現在の公園敷地も大きく含まれているため、公園側との十分な調整を求める。	具体的な設計にあたっては、公園側とも十分協議しながら進めます。
その他	60	美術館の整備自体に異論はないが、5年前に12億円で改修したばかりであるのに、さらに100億円をかけて整備することに疑問がある。また、県民の利用を促進するには最寄駅からのアクセスが悪く、現在地での拡充ではなく、より利便性の高い場所への移転を検討する必要があると考える。	令和2、3年の改修は、休館中の美術館を再開するにあたり、防火対策などの喫緊の老朽化対策のみ行ったものです。また、現在の場所は、公園の中にあり、周囲には文化施設、福祉施設、スポーツ施設、学校、大学があり、そういった強みを生かしていくため、現在の場所での整備が望ましいと考えています。
	61	目標数値の根拠が知りたい。	キッズアートセンターの新設による効果として年間5万人、展覧会観覧者の増5万人、イベントやギャラリー利用等の増2万人を想定しています。
	62	約4年間の休館が「公開承認施設」の認定に与える影響と、その対策について説明を求める。	国への所定の手続きを適切に実施することにより支障はないものと考えます。
	63	PFIに依らない場合の設計・建築事業者の選定方法（設計コンペや総合評価方式など）と、設計案に県民が関わる機会の提供を求める。	公募型プロポーザル方式による設計者選定を想定しています。設計業務においては、設計者と県民とのワークショップ等を進めることも検討しています。

滋賀県立美術館整備基本計画 (素案)



目 次

1	美術館整備の経緯	3
2	計画の目指す姿	4
3	整備の概念図	5
4	整備のポイント	6
5	現状と課題	10
6	事業と役割	13
7	施設整備	15
8	整備事業の推進	18

1 美術館整備の経緯

時期	事 項	概 要	整備計画の内容			
			施設設備 老朽化対応	展示室・収蔵庫 狭あい化対応	美術館 機能充実	文化館機能継承 (仏教美術等)
平成 25年	「新生美術館基本計画」 策定	美術館の老朽化・狭あい化等課題対応と休館中の琵琶湖文化館の機能を継承するための改修・増築を行う整備計画を策定	既存施設・設備の 大幅改修	展示室・収蔵庫の 拡張（増築）	公園整備 (一部は平成29年に実施)	文化財に対応した 展示室・収蔵庫の 整備
平成 29年	美術館休館 建築工事入札不落	4月に工事準備のため美術館は休館に入ったが、8月に実施した入札不落を契機に、整備を立ち止まり対応方針の検討を行う				
平成 30年	美術館の老朽化対策工事を先行させ、早期の再開館を目指す旨を表明					
令和 元年	琵琶湖文化館単独整備を表明					(単独整備へ)
令和 2年	美術館老朽化対策工事に着手	早期の再開館に必要な喫緊の課題である安全対策を中心とした老朽化対策のみの改修工事を実施（～令和3年、約12億円）	一部改修工事（消火設備・耐震・防水対策・トイレ・展示室内装等）実施	(未対応)		
令和 3年	「美の魅力発信プラン」 策定	3月に美術館と新たに整備する琵琶湖文化館を核として滋賀の美の魅力を発信する全体計画「美の魅力発信プラン」を策定	施設機能の向上について 今後検討を要する事項として記載			
	美術館再開館	6月に喫緊の課題対応の老朽化対策改修工事を終え約4年ぶりに美術館再開館			ロビー周辺の内装刷新、キッズスペース設置等	
令和 5年	長寿命化改修工事	施設長寿命化計画に基づく改修	屋根・作品用エレベーター等改修			
令和 6年	「美の魅力発信プラン」 中間見直し 「美術館魅力向上ビジョン」 策定	「美の魅力発信プラン」3年目の中間見直しに合わせて、積み残しとなっている美術館の施設機能や面積の課題に対応するとともに、ソフト・ハードを含めた機能向上の方向性を整理し、3月にビジョンとしてとりまとめ				
令和 7年	「美術館整備基本計画」 骨子とりまとめ	3月に骨子を取りまとめ	既存館の改修、増築、子どもがアートに親しめる環境整備、公園と一体となった整備			
令和 8年	「美術館整備基本計画」 策定（予定）	3月に策定予定	本資料のとおり			

2 計画の目指す姿

県立美術館では、美術館が抱える様々な課題や美術館を取り巻く社会情勢の変化に対応するとともに、滋賀の美の魅力を発信する存在感のある施設となるため、外部有識者で構成した美術館魅力向上部会での議論（令和5年7月～12月）を踏まえ、美術館の新たな方向性について調査・検討し、令和6年3月に「滋賀県立美術館魅力向上ビジョン」を策定しました。

ビジョンの概要

1. 現状分析

強み（内部資源・環境のプラス要素）

- ・世界的に見ても有数のアール・ブリュットのコレクション
- ・近代日本画や滋賀ゆかりの美術・工芸等、現代美術の特徴的なコレクションと、関連する調査研究や展示の実績
- ・教育交流事業（ワークショップやアウトリーチ等）の実績
- ・自然環境豊かなびわこ文化公園内に立地
- ・近隣に図書館、大学等教育機関や医療、福祉などの専門機関が多く立地
- ・高速道路からのアクセス利便性

弱み（内部資源・環境のマイナス要素）

- ・展示室の面積が都道府県立美術館としては狭く、コレクションの展示機会、巡回展や新機軸の展覧会の開催に制約
- ・収蔵庫の収容力に余裕がなく、今後の作品増加への対応に支障
- ・展覧会観覧者数が長期的に減少傾向
- ・既存施設の老朽化
- ・ギャラリーの展示環境や面積、搬入動線に制約
- ・野外空間の活用が不十分
- ・駅や近隣施設間の公共交通機関でのアクセスが不便
- ・びわこ文化公園内の園路の歩行環境や案内表示の整備が不十分

機会（外部資源・環境のプラス要素）

- ・びわこ文化公園へのPark-PFI制度の導入
- ・県全体の15歳未満人口の割合が、全都道府県の中で上位2番目
- ・新名神高速道路の延伸による交通アクセスのさらなる向上
- ・改正博物館法や文化観光推進法の施行等、美術館への新たな役割の期待
- ・国の第4期教育振興基本計画において全国の博物館・美術館等の機能強化・設備整備の促進が明記

脅威（外部資源・環境のマイナス要素）

- ・余暇の過ごし方の選択肢が多様化し、全国的に美術館のリニューアルや新設が相次いで行われる中、県立美術館の存在感が相対的に低下
- ・展覧会の開催経費（輸送費、保険料等）や館の運営経費（委託費、光熱費等）が高騰

2. 目指す姿

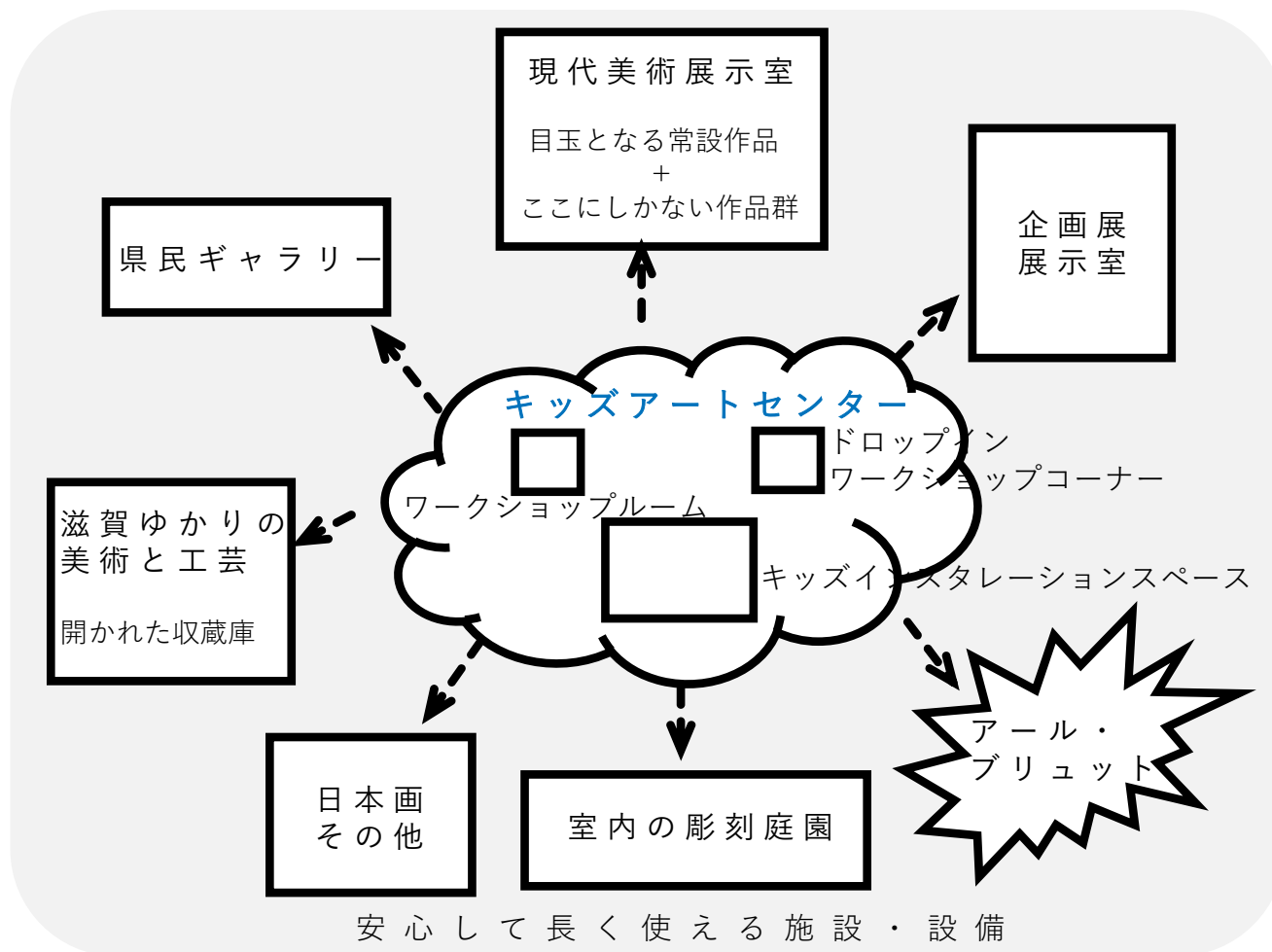


本基本計画は、ビジョンで掲げた方向性を実現するため、県立美術館の施設整備に係る具体的な計画を定めるものです。

3 整備の概念図

新しい滋賀県立美術館

概念図のポイント



1. 美術館活動の中心にキッズアートセンターを据える

- 美術館の片隅ではなく、中心にあると感じてもらえる存在として位置づける
- 美術館は「子どもにも大人にも開かれ、未来へつながる場所」であることを示す
- 将来的には県内キッズなら、一度は滋賀県立美術館に来たことがあるように
- 日本におけるキッズ分野のリーディングミュージアムとなることが期待できる

2. 県民共有の財産であるコレクションの有効活用を図る

- 所蔵作品が十分に公開できておらず、美術館への親しみや共感が育ちにくい現状を打破
- 国内随一の質を誇る戦後アメリカ・日本の現代美術や世界有数のアール・ブリュットコレクションの空間を持つことで全国的にユニークな美術館となる
- これにより、滋賀ゆかりの美術・工芸等もしっかりと展示でき、県立の美術館としての意義をより感じてもらえる

公園整備

誰もがアクセスしやすい+公園と一緒に楽しめる

- 県立美術館をゲートウェイにして滋賀が、「世界」と、もっとつながっていく
- ここにしかないアートとの出会いを求めて「世界」の人たちが、滋賀を目指してやってくる

4 整備のポイント

NEW

キッズアートセンターの誕生

キッズアートセンターは、未来の、クリエイティブな滋賀に向けての投資

子どもたちが、早い時期から、難しくはない形で本質的なアート体験をできる場を用意することは、子どもの権利に鑑みて、行政がすべきことのひとつである。また、これを美術館が実施するというのは、未来の観客を育てることにとどまらず、将来、クリエイティブな人材が県内からより多く輩出されていくようになるための布石でもある。



● キッズインスタレーションスペース

遊びながらアートに親しめる体験型・参加型の展示空間

アーティストやデザイナーとのコラボレーションによって、芸術を感じる心や創造性を育むことが期待できるプログラムを開発、実践する。パリのポンピドゥー・センターが実施している子どものためのアートのスペースなど先進事例を参考とする。（年1回程度の定期的な展示替えを想定）

学校との連携により団体観覧の受け入れを積極的に行うとともに、それをきっかけに何度も家族で来館してもらえよう取組を進めていく。

● ドロップインワークショップコーナー

企画展示室近くに設ける予約不要の創作コーナー

展示をきっかけに、創作意欲や好奇心を刺激し、自発的な体験や表現を通じてさらなる気づきや学びを提供する。

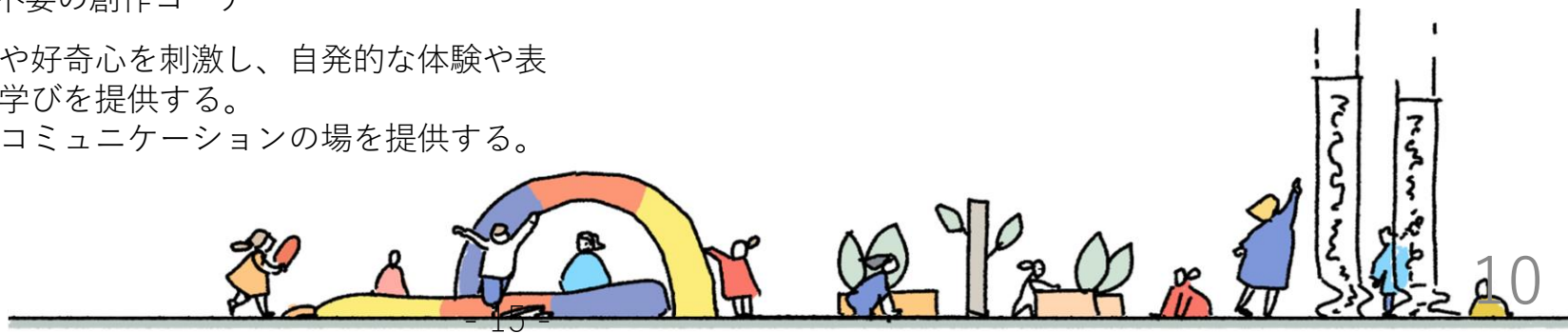
大人も一緒に楽しみ、世代間コミュニケーションの場を提供する。

● ワークショップルーム

子どもから大人まで、創作活動を楽しめる空間

平日は、学校団体鑑賞の受け入れ。週末は、一般向けワークショップ等

一区画は、開館時間中なら自由に入出入り可能で、自分で好きに創作もできるフリースペースを設け、居心地よくサードプレイスとしても利用される空間



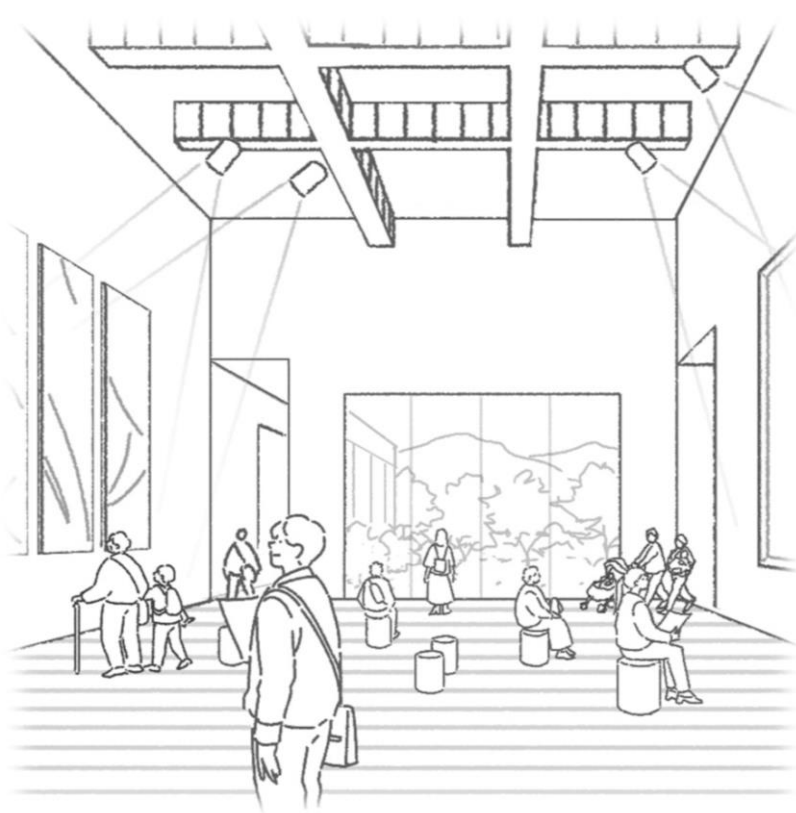
NEW

3つのコレクション展示室を増設

1. 現代美術コレクション

光をキーワードに、ここにしかない現代美術の展示棟をつくる

今、世界の主要美術館ではスタンダードとなっている外光の入る気持ちのよい空間をつくり、滋賀県が着実に収集してきた20世紀後半のアメリカ美術のコレクションを常設展示。ロスコやスティールなど、アジアではここでしか見られない奇跡のコレクションがあることを打ち出していく。



また、目玉作品として、話題性のある新しい滋賀県立美術館のシンボルとなるような作品を新規に収蔵し恒久設置することで、「滋賀でしか実現できないアートとの出会い」をより魅力的なものとする。

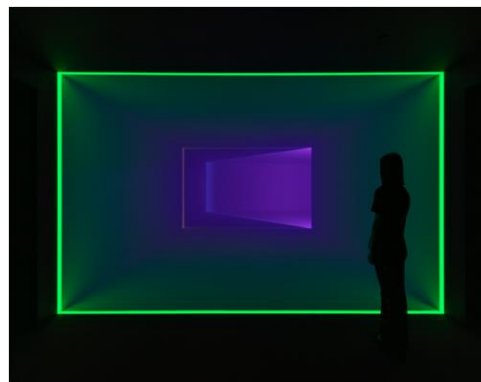
(参考) 検討作品例

没入型（イマーシブ）作品の元祖とも言えるジェイムズ・タレルのインスタレーション作品

光そのものを使った体験型アートであるタレルの作品は、美術史、心理学、生理学、哲学の知識がなくても、

「見るとはなにか」「色とはなにか」「感じるとはなにか」ひいては「今ここに立っている私とはなにか」を深く考えさせてくれる点が高く評価されており、高松宮記念世界文化賞を受賞している。

そんな彼の作品は、2013年のグッゲンハイム美術館での個展には47万人が訪れたように、アートファン以外にも絶大な訴求力を持っている。



James Turrell, *The Wedge*, 2025 ©James Turrell

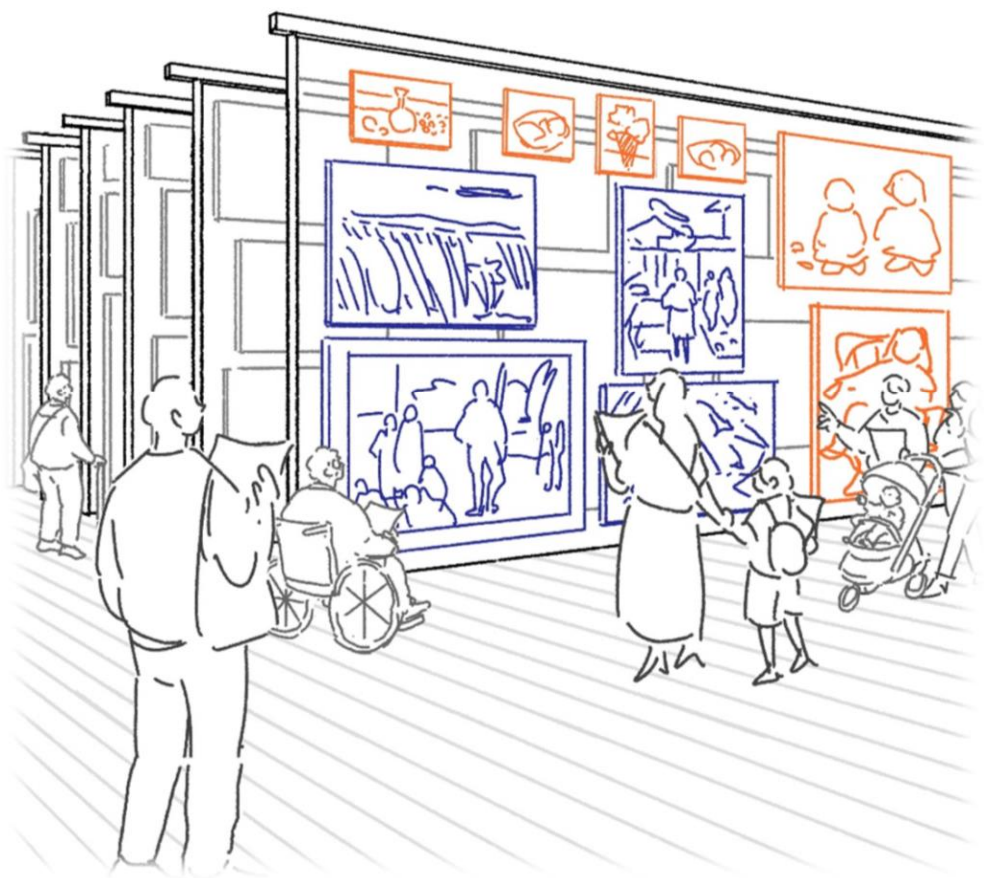


James Turrell, *The Looking Glass, Wide Rectangular Curved Glass*, 2021 ©James Turrell

2. アール・ブリュットコレクション

世界に誇るアール・ブリュットのコレクションで世界各地と連携
しっかりとしたボリュームで常設的に鑑賞できる環境の整備
関連情報を紹介するコーナーも併設

今や世界有数の規模となったアール・ブリュットのコレクションを、滋賀が収集することになった歴史的背景を含めて常設展示をしていくことで、滋賀の文化的な歴史と強みを国内外にアピールしていく。



3. 滋賀ゆかりの作品をいつでも鑑賞できる 開かれた収蔵庫としての展示室

オープン・ストレージ（開かれた収蔵庫）× 滋賀ゆかりのアート

保管と公開の機能を兼ね備えた

開かれた収蔵庫として展示室を再整備

県民の財産であるコレクションの数々を保管しながら、公開機会を確保する（工芸作品など収蔵対象は保存環境を踏まえ検討）

滋賀ゆかりの美術・工芸は、従来の選抜型（セレクトティブ）ではなく、収蔵庫のような集積型の展示室とすることで、より多くの作品をいつでも見られるように。これにより、美術館のコレクションは県民の共有の財産であることがより明確となり、シビックプライドの醸成にもつながっている。

NEW

公園全体に広がるアート



● 野外作品の充実

アートに親しむきっかけや公園のシンボルとなるような作品の整備



● 誰にとっても居心地が良い空間の充実

- ・館内スロープの改善、カームダウンスペースの新設
- ・公園と一緒に楽しめる憩いの空間の充実
- ・彫刻作品を眺めながらくつろげるエリアの充実
- ・キッチンカーとテラス席による飲食の提供

● 県民ギャラリーの改善

- ・より多くの県民や団体の創作の発表の場として使っていただきやすいように敷地内で移設
- ・現在エントランスを利用している搬入出について専用搬入出口を設けるとともに、照明や区分使用しやすい可動壁の設置等展示環境の改善

5 - 1 現状の分析

1. 利用者

[休館前]

H28 (2016) → R6 (2024)

- 利用者数 11万人 → 11万人
- 満足度 78% → 95%
- 中学生以下の割合 4% → 11%
- 障害者の割合 3% → 5%

利用者数は横ばいだが、満足度や子ども、障害者の利用割合は増加している

〔各展覧会・教育交流・ギャラリー利用等の総計。実来館者数は6.4万人(R6)〕
〔アンケートにおいて「大変良かった」「良かった」と回答のあった割合〕
〔展覧会観覧者における割合。〕
〔展覧会観覧者における割合。介助者含む。〕

2. コレクション

[令和7年2月時点：2,729件]

- 日本美術院を中心とした近代日本画
- 滋賀ゆかりの美術・工芸等
- 戦後アメリカと日本の現代美術
- アール・ブリュット
- 芸術文化の多様性を確認できるような作品

滋賀ゆかりの作品のほか、現代美術や近代日本画、アール・ブリュットは全国的に見ても特徴的

〔小倉遊亀、安田靉彦、速水御舟ほか〕
〔志村ふくみ、清水卯一、野口謙蔵ほか〕
〔ロスコ、スティル、白髪一雄ほか〕
〔2016年から収集開始。世界的にも有数〕
〔2021年から新たに収集方針に加わる〕

3. 展示や取組

- 子どもが楽しめる
- 滋賀県ゆかりの作品や若手アーティストの展示
- 多様性をより深く感じられる展示
- ウェルビーイングに資する取組

リニューアル以降新たな取り組みを始めているが、今後の展開のためには施設面で制約がある

〔ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展 企業寄附による無料観覧デー等〕
〔小倉遊亀、笹岡由梨子(予定)〕
〔“みかた”の多い美術館展、さわる展示〕
〔健康や幸福感に良い影響を与えるアートの社会的価値に係る取組。対話鑑賞等〕

5 - 2 背景と主な課題

● 背景となる社会情勢や法制度

(世界) ICOM (国際博物館会議) ミュージアムの新定義採択 (R4.8)
気候の変動に伴う気温上昇やゲリラ豪雨等

(国) 文化芸術基本法の改正施行 (H29.6)
博物館法の改正施行 (R5.4)
孤独・孤立対策推進法の施行 (R6.4)
地球温暖化対策推進法の改正施行

(県) 新生美術館基本計画 (H25.12)
美の魅力発信プランの策定 (R3.3、R6.3中間見直し)
美術館魅力向上ビジョンの策定 (R6.3)

● 滋賀県立美術館の主な課題

竣工後40年を超えた施設機能の低下

建物や設備の老朽化 (経年劣化、水漏れ、空調設備等の耐用年数到来)

将来を見据えた美術館にふさわしい機能の不足

展示収蔵環境の制約、社会情勢の変化に伴い求められる機能の多様化
建物の環境性能やアクセスの向上等

 **改修や機能の充実にかかる整備が必要**

5 - 3 施設面の課題

	現況写真等	築後40年の現状・課題	将来を見据えた対応	備考
キッズエリア		・学校団体の受け入れスペースに制約がある ・一般的な導線と離れた場所にある配置	・子どもがアートに親しめるための体験型・参加型の展示空間の充実	
ギャラリー		・作品の搬出入導線がエントランスからであり制約が大きい ・外光の侵入、貧弱な照明	・専用搬入出口の確保 ・敷地内移設し展示環境の改善を図る	
展示室		・展示面積や天井高の制約により、展示できる作品の数に制限があったり魅力が生まれてこない	・優れた収蔵品にふさわしい常設展示のためのゆとりとした空間の確保 (郷土ゆかり、現代美術)	全国38位
収蔵庫		・収容力が限界のため今後の受贈・作品収集に支障 ・一般的には美術館における収蔵の役割が見えにくい	・収蔵スペースの確保。既存展示室を収蔵庫として活用するなど収蔵機能の見える化との両立を図る	全国31位
公園関連		・バス停、駐車場からの距離 ・悪路、でこぼこ、駐車場からの導線の分かりにくさ	・だれもがアクセスしやすい公園内導線の確保 ・野外作品など公園と一体で楽しめる工夫	
設備等		・配管劣化による水漏れ ・雨水侵入 ・回廊等結露対策	・今後も美術館としての機能を維持していくための施設設備の改修（空調設備更新等）	R3改修は、再開館のための喫緊の課題対応のみ

6 - 1 根幹となる事業と役割

美術館の事業

美術品収集

展覧会開催

教育・コミュニケーション

社会とのかかわり

リンクと発信

人がつくった様々なものに触れることを通じて、社会や環境の多様性をより深く感じられる場をつくる

- ▶ 滋賀の宝を後世に継承する
- ▶ 滋賀における創造の場を支える
- ▶ 子どもたちの学びや育ち、県民の交流に貢献する
- ▶ 創造性あふれる豊かな社会づくりに貢献する
- ▶ 滋賀の魅力を国内外に伝える

県民の文化の発展および
美術の振興を図る

6 - 2 重要な視点

● 子どもがアートに親しめる環境整備と学びや育ちへの貢献

- ・ 子どもがアートに出会う機会となる展示・イベント
- ・ 学校との連携による団体観覧や出張授業による来館の促進

● 様々な主体とのかかわり

県民・利用者	インクルーシブな美術館として様々な方に親しんでもらう展示やイベント 整備過程における県民や関係団体の参画・協働 ファンドレイジングやファン・コミュニケーションを通じた共感の醸成と歳入確保の推進
福祉	福祉や医療分野等との連携による社会的処方の実践
企業	企業や経済界と美術館の協働による事業展開、企業CSR・メセナ
観光・交通	滋賀の多様な文化的資源を発信、文化やアートの魅力に着目した周遊観光の促進 交通アクセスの確保や文化情報発信での連携
大学	周辺の大学や芸術系大学と相互連携
公園	THEシガパークビジョン、滋賀県公園緑地検討協議会、図書館、埋蔵文化財センター等
地域	びわこ文化公園都市、市町、地域の自治会、団体等

● 新しい琵琶湖文化館との連携

2館が役割を分担・連携しながら話題性や発信力のある取組を展開し滋賀の魅力を発信

- ・ 県立美術館 : 県内の近現代美術の中核拠点
 アートを通じて未来をひらく取組（子ども、多様性、ウェルビーイング等）
- ・ 新・琵琶湖文化館 : 県内歴史文化系博物館の中核拠点
 近江の文化財の保存活用

7 - 1 整備にあたり踏まえるべき点

「子どもも大人も来たくなる 未来をひらく美術館」実現のため
今後、設計提案を受ける段階や整備を進めるにあたり踏まえるべき点

- 将来を見据えた美術館にふさわしい機能の確保
- 美術館へのアクセスの改善
- 子どもをはじめ誰もが利用できるユニバーサルミュージアム
- 持続可能性を見据えた建物（CO2ネットゼロの推進、県産材活用等）
- 県民の誇り・県の象徴となるような魅力ある建物

7 - 2 整備のための諸条件

想定される整備エリア



出典：国土地理院の航空写真

増築可能範囲： 

図書館と美術館の間には3 m程度のレベル差があり、増築は難しい。既存館北東には公園の池の水を循環させる装置が設置されており、造成を伴う増築は現実的ではないため、増築可能範囲は既存館南側と北西側に限定される。

※現段階の想定であり、具体的には、設計者の選定段階で改めて示す。

7 - 3 施設整備の想定面積および概算費用

面積は、現在の8,545㎡から、改修増築により、整備後は、約12,000~12,500㎡を想定する

	現在 ①	今回計画 ②	差引 ②-①	増加割合 ②/①	②の主な内容
キッズ	255 ㎡	1,000 ㎡	745 ㎡	× 3.9	キッズインスタレーションスペース 600㎡ ドロップインワークショップコーナー 80㎡
展示	1,875 ㎡	3,565 ㎡	1,690 ㎡	× 1.9	現代美術展示室 1,000㎡ 目玉となる新しい常設作品 現エントランスの一部を展示空間に改修 330㎡ アール・ブリュット 360㎡ (現ギャラリーを改修し常設化)
収蔵	849 ㎡	849 ㎡	0 ㎡	× 1	一部既存展示室を「開かれた収蔵庫としての展示室」化 (展示・収蔵機能を兼ねる。約670㎡)
共用部等	5,566 ㎡	約 6,700 ㎡	約 1,100 ㎡	× 1.2	県民ギャラリーは増築部分へ移設併せて使い勝手を改善
計	8,545 ㎡	約12,000~ 12,500 ㎡	約 3,500~ 4,000㎡	× 1.4	

● 建物整備に係る概算整備費 約 1 0 0 億円

改修	約 5 0 億円	調査を踏まえた見込額
増築	約 5 0 億円	3,500~4,000㎡程度

※近年の物価上昇を踏まえ、費用対効果の向上を図りつつ整備内容を精査したもの。なお、改修・増築の金額配分は精査中

● 関連する費用 精査中

※公園整備に係る費用、設計調査費等のほか、キッズアートセンターのプログラム開発や目玉となる作品購入費用を見込む

8 - 1 目標

- 年間利用者数（実来館者数）

令和6年度	11万人（6.4万人）
再開館後	23万人（16万人）



- 来館者の満足度（「大変よかった」＋「よかった」の割合）

令和6年度	95.4%
再開館後	90%以上の継続

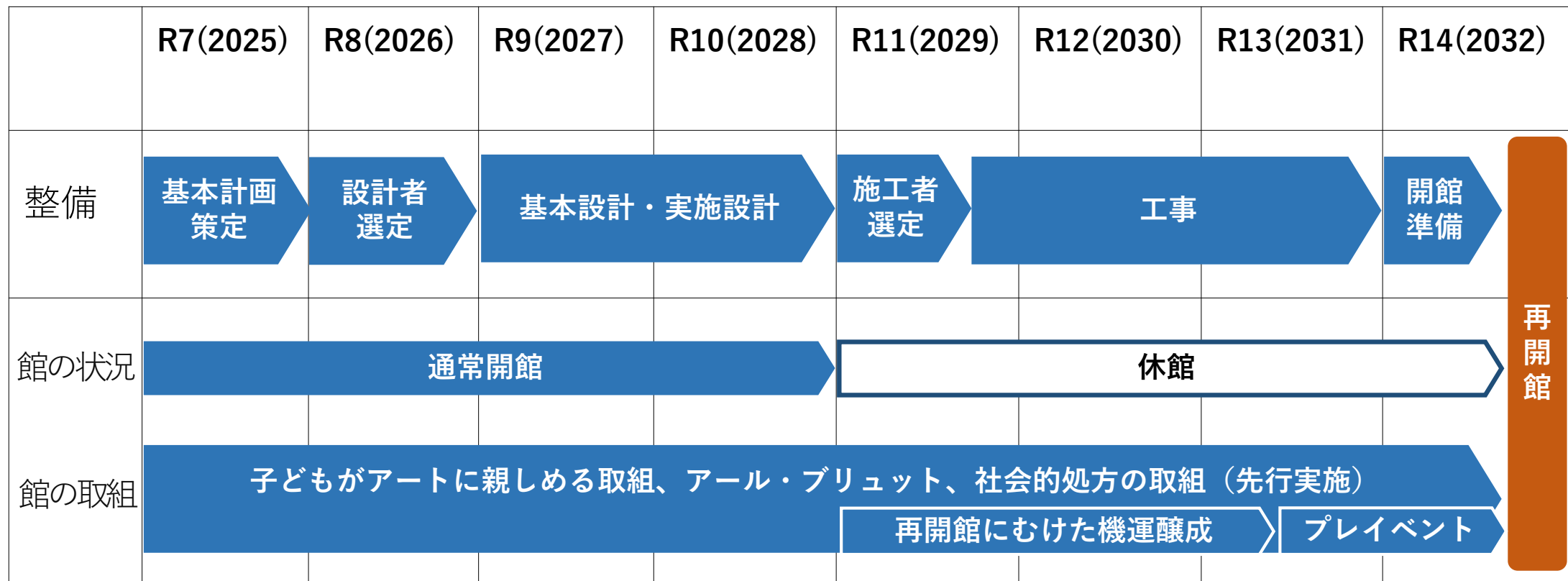


8 - 2 事業手法・スケジュール

事業手法

- ・事業手法は「滋賀県PPP/PFI 手法導入優先的検討方針」に基づき、本計画の策定時を目途に、PPP/PFI手法と従来型手法との比較により最適な手法を選定することとされている。
- ・今回の整備に関しては、改修を伴う美術館の整備であることを踏まえ、従来手法による整備の方が合理性が高いと考えられる。

想定スケジュール



令和 8 (2026)年度の 主な事業予定について

滋賀県立美術館協議会
令和 8 (2026)年 3 月 9 日

1 令和 8 (2026)年度の予算要求状況

1-1 歳入 単位：千円

項目	令和 7 (2025)年度	令和 8 (2026)年度	主な内訳
常設展観覧料 (a)	2,964	3,705	
企画展観覧料 (b)	25,133	20,700	
県美メンバーズ (c)	3,895	3,895	
美術館サポーター (d)	5,300	9,300	企業寄附金 (サポーター制度)
図録等販売収入 (e)	3,600	4,000	各企画展図録、絵葉書等
ギャラリー使用料 (f)	3,361	3,361	ギャラリーおよびポップアップギャラリー使用料
助成金・国庫支出金ほか (g)	61,748	72,090	文化振興基金繰入金 (68,630) 国庫支出金 (3,460)
その他 (h)	537	536	ショップ使用料等 (320)・特別観覧料 (136) ・ワーク ショップ材料費 (80)
特定財源計 (a)～(h)	106,538	117,587	前年度比 11,049千円増
一般財源	241,765	238,602	
合 計	348,303	356,189	

1-2 歳出 単位：千円

事業名	令和 7 (2025)年度	令和 8 (2026)年度	主な内訳
管理運営費	158,247	159,282	施設管理、空調費、修繕費ほか
美術品収集事業費	12,000	17,000	作品購入 (8,800)、作品修復 (8,200) ほか
展覧会開催事業費	117,395	100,990	常設展、企画展、次年度準備、展示監視 ほか
情報普及事業費	11,120	9,327	広報、美術教育、講座・ワークショップ開催 ほか
整備事業費	10,900	0	空調設備修繕 (令和7年度完了)
魅力向上・整備推進事業費	38,641	69,590	P.11～12のとおり
合 計	348,303	356,189	前年度比 7,886千円増

2 展覧会の開催予定

4 回の企画展を開催するほか、常設展についても展示ごとのテーマを設定し、通年展示を行う。

区分	名称	展示室	会期	開催日数	目標観覧者数
企画	滋賀県美術協会 第70回記念展	3	3月28日（土）－4月5日（日）	8	
企画	ためして、みる展 さわって 照らして ねそべって!? アートを楽しむ10のトライ	3	4月17日（金）－6月21日（日）	57	8,000
企画	コレクター福富太郎の眼 昭和のキャバレー王が愛した絵画	3	7月3日（金）－8月30日（日）	51	12,000
企画	丸木スマ展（仮称）	3	9月11日（金）－11月23日（月・祝）	64	12,000
企画	佐川晃司展（仮称）	3	1月15日（金）－3月22日（月・祝）	58	8,000
共催	第80回 滋賀県美術展覧会	2,3 およびギャラリー	12月9日（水）－12月16日（水）	7	
常設	SMoAコレクション1	1	2月25日（水）－5月10日（日）	65	65,000
	SMoAコレクション1	2	2月25日（水）－5月10日（日）	65	
	SMoAコレクション1	小倉遊亀コーナー	2月25日（水）－5月10日（日）	65	
	SMoAコレクション2	1	5月22日（金）－8月30日（日）	87	
	SMoAコレクション2	2	5月22日（金）－8月30日（日）	87	
	SMoAコレクション2	小倉遊亀コーナー	5月22日（金）－8月30日（日）	87	
	SMoAコレクション3	1	9月5日（土）－11月23日（月・祝）	69	
	SMoAコレクション3	2	9月5日（土）－11月23日（月・祝）	69	
	SMoAコレクション3	小倉遊亀コーナー	9月5日（土）－11月23日（月・祝）	69	
	SMoAコレクション4	1	12月9日（水）－4月4日（日）	91	
	SMoAコレクション4	2	12月22日（火）－4月4日（日）	91	
	SMoAコレクション4	小倉遊亀コーナー	12月9日（水）－4月4日（日）	84	

2-1 企画展「ためして、みる展 さわって照らしてねそべて!? アートを楽しむ10のトライ」

会期：4月17日（火）—6月21日（日）

会場：展示室 3

□概要

当館の館蔵品を、「展示室の中央に敷かれた畳の上で寝そべて鑑賞する」「双眼鏡や顕微鏡を使って見る」「暗闇の中で懐中電灯で照らして見る」等、普段はできない10種類のトライ（ためして、みる鑑賞法）で楽しんでいただく展示。普段と異なる視点や視野で作品に接することにより、作品そのものや自分の感覚に対する新しい気づきを得ることができる。館蔵品に対する見識を広げるきっかけにもなる。

□展覧会開催の観点

本展で用意した10のトライは、いずれも従来の「受け身的な鑑賞法」ではない、自分の身体や道具を使って「能動的に楽しむ体験」であり、子どもたちには新鮮な驚きと、心わくわくする冒険めいた体験を、大人にはこれまでの鑑賞では気付かなかった作品の魅力を再発見する喜びを、それぞれ提供しうる。大人から子どもまで世代を超えて楽しみ、話題を共有できる展覧会である。

！ 見どころ

- ・趣向を凝らした鑑賞法が楽しめる10のトライコーナー。特に「暗闇の中で作品を見る」コーナーはスリリングな体験。
- ・ジャンルの壁を越えて様々な作品を能動的に楽しめる。これまで食わず嫌いであったジャンルに親しむためのきっかけになるかも!?



子どもにもアピールする
デザインのちらし



ケネス・ノーランド《カドミウム・レイディアンス(カドミウムの輝き)》昭和38(1963)年 滋賀県立美術館蔵



大林千鶴樹《街道》
(右隻) 大正初期
滋賀県立美術館蔵



角喜代則《森の妖精》平成
5(1993)年 滋賀県立美術館蔵

□主催：滋賀県立美術館 京都新聞

□後援：エフエム京都

□企画：平田健生（滋賀県立美術館 主任学芸員）

2-2 企画展「コレクター福富太郎の眼 昭和のキャバレー王が愛した絵画」

会期：7月3日（金）—8月30日（日） 会場：展示室 3

□概要

福富太郎（ふくとみ たらう、昭和6(1931)-平成30(2018)）は、昭和39(1964)年の東京オリンピック開催による好景気を背景に、全国各地に44店舗ものキャバレー（舞台のショーを見たり、会話を愉しみながら飲食をおこなう娯楽施設）を展開した実業家。本展では、福富が惚れ込んだ鏑木清方の美人画のほか、福富独自の審美眼によって収集された多彩な画家による日本画、明治期以降の油彩画、戦争周辺の絵画など約80件を展示する。

□展覧会開催の観点

従来の評価にとらわれず、福富が自身の眼で見て、良質であると信じて蒐集した作品群のユニークさは他に類を見ない。山下裕二氏（美術史家、明治学院大学教授）監修のもと、時代もジャンルも多岐にわたる魅力的なコレクションを分かりやすく紹介する。

！ 見どころ

- 1：なんといっても鏑木清方！ 鏑木清方の優品10数点を展示
- 2：女性の姿、古今東西 多彩な画家が描く女性の姿
- 3：コレクターの審美眼にシビれる！ 独自の信念で収集された作品群
- 4：作品への思いが伝わる 福富の言葉を展示室に展示

□主催：滋賀県立美術館 京都新聞

□監修：山下裕二（美術史家、明治学院大学教授）

□特別協賛：福富太郎コレクション資料室

□企画協力：株式会社アートワン

□後援：未定

□担当：山口 真有香（滋賀県立美術館 主任学芸員）



北野恒富《道行》（部分）
大正2(1913)年頃



鏑木清方《薄雪》大正6(1917)年頃

※いずれも福富太郎コレクション資料室蔵

2-3 企画展「丸木スマ（仮称）」

会期：9月11日（金）—11月23日（月・祝）

会場：展示室 3

□概要

丸木スマは明治8(1875)年広島生まれ。懸命に働いて4人の子どもを育て上げたのち、昭和20(1945)年原爆に遭い、翌年に夫と死別する。年齢を重ね日々の楽しみを見つけれないスマに、息子で画家の丸木位里は絵を描くことを勧め、スマは70歳を過ぎて絵筆を手にした。身近な動物や魚、四季の花々を色彩豊かにのびのびと表現した作品は女流画家協会展や院展で評価され、時代の注目を集めた。本展では、埼玉県東松山市の原爆の図丸木美術館の収蔵品を中心に、故郷広島に伝わる作品を交え、生命力あふれる作品世界を紹介する。

□展覧会開催の観点

70歳を越えて初めて絵を描くようになり時代の注目を集めた丸木スマ。画集に安田靫彦が序文を寄せ、柳宗悦も評価した作品の魅力を、「日本美術院を中心とした近代日本画」と「アール・ブリュット」を収集方針に持つ当館ならではの視点で紹介。

！ 見どころ

- ・花や木、魚、鳥、猫、人、そして故郷をカラフルに描く。スマおばあちゃんの生命力に包まれる展覧会。
- ・「おばあちゃん画家」だけではくれない、かたちのとらえかたや色の置き方。唯一無二の作品世界に浸る展覧会。
- ・安田靫彦や金島桂華ら画壇の重鎮、「民藝」を生んだ柳宗悦を魅了したものとは？スマを求めた時代を考える。
- ・自由に描くこと、心のおもむくままに描くことの楽しさが直感的に伝わってくる展覧会。

□主催：滋賀県立美術館 京都新聞

□監修：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館）

永井明生

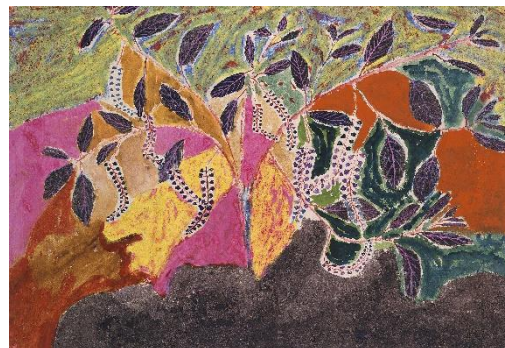
（ギャラリー瓦全房、元広島県立美術館）

□協力：原爆の図丸木美術館（予定）

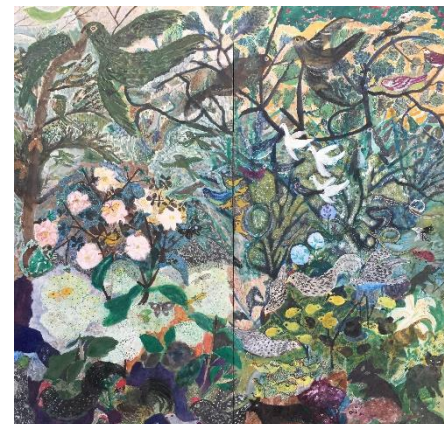
□協賛、後援：未定

□企画：山田 創（滋賀県立美術館 学芸員）

※令和8(2026)年秋には立命館大学国際平和ミュージアムでスマの息子、丸木位里《原爆の図》公開も企画されています。



丸木スマ《山ごぼう》 昭和26(1951)年
原爆の図丸木美術館蔵



丸木スマ《簪》 昭和30(1955)年
原爆の図丸木美術館蔵

2-4 企画展「佐川晃司展（仮称）」

会期：令和9年1月15日（金）—3月22日（月・振休） 会場：展示室 3

□概 要

滋賀県内の里山にアトリエを構える佐川晃司（昭和30(1955)-）。菱形や三角形を基本的な構成単位とする彼の絵画を眺めていると、作品と身体とを包含する場が立ち現れてくるような感覚が訪れます。そんな佐川作品は「見る」という行為の本質を探求するものとして高く評価され、国内の主要美術館で個展が着実に開催されてきました。本展は、混沌とした時代にこそ体験してほしい、心静まる場としてキュレーションされます。

□展覧会の観点

絵画表現の多様な可能性を広く紹介する。

！ 見どころ

- ・滋賀ゆかりの画家、佐川晃司の創作活動を紹介する個展。
- ・初期の作品から新作までをドローイング、スケッチなどとあわせて展示。

□主催：滋賀県立美術館 京都新聞

□協力、協賛、後援：未定

□企画（担当）：真山 陽理子
（滋賀県立美術館 学芸員）



佐川晃司 《半面性の樹塊 No.56》 平成19(2007)年
滋賀県立美術館蔵

2-5 常設展

年間を通じ、展示室1、展示室2、小倉遊亀コーナーにおいて当館の収蔵品を中心に紹介する。令和8(2026)年度は会期を4期に分け、それぞれの期ごとに担当学芸員が展示を企画する。

□展示室 1

主に日本画と滋賀の郷土美術を紹介。「Ⅰ期」では滋賀の工芸を中心に、「Ⅱ期」「Ⅲ期」においても、それぞれテーマを決めたコレクション展示を企画中。「Ⅳ期」では展示室2と合わせて、新収蔵品を中心に紹介予定。

□展示室 2

主に戦後アメリカと日本を中心とした現代美術、アール・ブリュット作品を紹介する。「Ⅰ期」では現代美術と陶をテーマとした展示を、「Ⅱ期」から「Ⅲ期」では特に大型の現代美術作品の展示をおこなう予定。

□小倉遊亀コーナー

当館の開館に大きく寄与した滋賀県大津市出身の日本画家、小倉遊亀（明治28(1895)-平成12(2000)）の作品を紹介。年間を通して、来館者がいつでも小倉作品を楽しむことができるコーナーとして展示を行う。なお、本コーナーの小倉作品については撮影が可能。



展示室 1 Ⅰ期展示予定
森口華弘《春遊》昭和56(1981)年



展示室2 Ⅱ-Ⅲ期展示予定
ロバート・ラウシェンバーグ《ゲート（北）》昭和元(1926)年



小倉遊亀コーナー Ⅱ期展示予定
小倉遊亀《童女入浴》昭和元(1926)年

3 SM0Aやわらか大計画

3-1 試行をプログラム化するための展開

- 館職員とボランティアの研修：認知症についてや車椅子の扱い方の研修を開催。
- プログラム化に向けてのマニュアル作成：試行での経験や対応事例を、館内で共有できるようマニュアル化を試みる。
- ソーシャルストーリーの作成：当事者と支援者からの聞き取りを踏まえ、美術館への来館方法や館内での過ごし方を事前に知ることができるよう、ソーシャルストーリーを作成し、美術館ホームページから見られるようにする。

3-2 新しい美術館に向けての取り組み

- つながりをつくる：当事者や支援者、地域のソーシャルワーカー、専門家など、「SMoAやわらか大計画」を進めていくためのつながりをつくり、新しい美術館が開館するまでのロードマップを作成する。
- ワークショップの開催：令和8(2026)年度の「滋賀県立美術館整備基本計画」の設計の仕様を決める際に、アクセシビリティを向上させるための美術館の設備のあり方や、プログラムの運営方法などを、当事者や支援者と一緒に考える機会をつくる。



左の写真は、令和7(2025)年8月23日（土）に開催した「みんなでつくる！みんなで楽しむ！美術館の夏祭り」の時に、事前ワークショップで地域の子どもたちが描いた公園と、当日のワークショップ「未来の美術館を描いてみよう！」で来館した子どもたちが描いた未来の美術館。

4 連携

4-1 教育機関との連携

- 連携協定を締結している県立東大津高等学校との連携の深化
- 近隣の龍谷大学との連携強化に向けた検討
- ラボ等を活用した大学等との連携企画の検討

4-2 企業等との連携

- 無料観覧デー・サポーターや法人サポーター等との連携企画の実施
- 地元の商業施設であるフォレオ大津一里山でのワークショップの実施および連携協定締結に向けた検討
- 湖北における現代美術展 ASK02での地域の自治体や企業、団体等との連携の検討
- ラボ等を活用した企業等との連携企画の検討

4-3 県庁との連携

- 文化芸術振興課と連携し、「美の糸ロートにどぼん！」や「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクトの展示等の開催
- 滋賀キッズミュージアムネットワークによるイベント等でのワークショップ等の実施

4-4 市町との連携

- 市町のアートイベント等でのワークショップの実施
 - 湖北における現代美術展 ASK02での地域の自治体や企業、団体等との連携の検討
- 【4-2再掲】

4-5 文化施設・団体との連携

- 美の魅力発信 5 館ネットワークを活用した交流の促進や連携企画の検討
- 国立アトリサーチセンターの事業による、当館学芸員とオーストラリア（シドニー）の美術館のキュレーターとの共同調査研究の深化
- ポンピドゥー国立文化芸術センターとのキッズギャラリー整備に向けた連携

4-6 びわこ文化公園連携

- 図書館・埋蔵文化財センター・美術館との連携企画の検討



県立東大津高等学校との連携授業（令和7年度）



ミュージアムコンサート
（令和7年度平和堂財団との連携企画）



ラボを活用した連携企画（令和7年度国立印刷局展示）

5 美術館魅力向上事業

令和8(2026)年3月に策定予定の「美術館整備基本計画」および令和6(2024)年3月に策定した「美術館魅力向上ビジョン」に基づき、美術館の新たな姿の実現を目指して、美術館の魅力・機能の向上に向けた取組と施設整備を一体的に行う。

5-1 設計者選定（プロポーザル実施）（5,209千円）

美術館に関連した施設整備にあたっては、施設の意匠性やデザイン性が重要な要素となることから、既存館の改修工事と新館の新設工事、公園の改修工事にかかる設計業務委託について、設計者の選定を公募型プロポーザル（書類審査（1次審査）およびプレゼンテーション審査（2次審査）の2段階）により実施する。

（参考）債務負担行為

美術館増築その他工事設計業務（723,965千円）（令和8(2026)年度から令和10(2028)年度）

美術館増築その他工事測量調査業務（98,340千円）（令和8(2026)年度から令和9(2027)年度）

5-2 設計者選定関連委託業務（32,000千円）

設計者選定を円滑に進めていくため必要な技術的支援を求めるもの。整備事業の与件やコンセプトをさらに明確化し、手戻りなく設計業務を開始できるよう準備を進める。

5-3 意見聴取・情報発信等業務（4,700千円）

近年では、設計に入る前の段階から広く意見を収集し、整備プロセスを可視化・共有していく手法が、一般に開かれた公共施設の整備における標準となっている。本業務では、当館の設計業務に先立ち、県民や関係者の意見を収集・整理するワークショップの開催や、整備の意義や進捗を分かりやすく発信する広報、プロセスの記録・アーカイブ化を一体的に実施する。

5 美術館魅力向上事業

5-4 公園・地域と一体となったエリアの魅力向上プロジェクト（1,795千円）

喫緊の課題に対応するため、公園内および敷地内に案内表示看板を設置する。

5-5 子どもと一緒に楽しめる美術館（11,645千円）

子どもたちの学びや育ちに資する美術館の実現に向けた取組を展開する。

①夏祭りの開催、②キッズギャラリーの実現に向けた調査・交渉、③子どもと一緒に楽しめるモデル展示

5-6 野外彫刻作品の設置検討（872千円）

整備基本計画に基づき今後野外に彫刻作品を設置するため、一部作品設置に向けた作家の調査を行う。

5-7 ナイトミュージアム（2,314千円）

新たな来館者層の拡大に向けて、ナイトミュージアム（夜間開館）を経済界等との連携により実施する。

5-8 北の近江 現代アーティスト展示【北部振興】（7,056千円）

今年度に引き続き、美術館から距離がある湖北地域において、現代アーティストによる作品展示を中心に、ワークショップ等のイベントを地域の自治体・関係者等との連携により実施する。

5-9 美術館における社会的処方モデル実践【新規事業】（4,000千円）

多様な属性の人たちが、美術を通じて社会とつながり、よりよく生きること（ウェルビーイング）に資するための取組を美術館においてモデルとして実践する。

トピックス1:

ボンピドゥー国立芸術文化センターとの連携

整備基本計画の中で新たに整備（増築）予定のキッズギャラリーについて、連携先として予定しているフランスのジョルジュ・ボンピドゥー国立芸術文化センター（パリ市）との交渉・調整や、フランス国内の関連施設（ミル・フォルム）の調査等を行う。

トピックス2:

北の近江 現代アーティスト展示「ASK」

「ASK」はアート・スポット・イン・湖北（Art Spot in Kohoku）の略で、令和7年度から3年間かけて、高島市、米原市、長浜市を順番に巡る。アーティストが地域とかかわりながら作品を制作、展示することを通じて、北部地域の自然や歴史、文化の魅力の再認識や発信、県内外からの誘客、関係人口の創出を目指す。